

## 第1回アドバイザー会議を受けて

⇒ランドマークとなる新たな構造物を、どのような環境下で、  
どのような景観に、どのように調和させるのか

- 景観法（平成16年制定）
- 藤井寺市景観形成ガイドライン
- 八尾市景観計画
- 八尾市公共施設景観形成基本方針

○景観法とは

景観法は、都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、国等の責務を定めるとともに、景観計画の策定、景観計画区域の形成のための規制、景観整備機構による支援等所要の措置を講ずるための法律です。

### ◆景観法(平成16年制定)の概要

**基本理念**  
良好な景観は、「国民共有の資産」、「地域の自然、歴史、文化等の特性と密接に関連」、「地域の活性化に資する」、「保護と発展を促す」ものである。

**景観行政団体**（景観法に基づく大部分の事務の実施主体）

**景観計画（届出・勧告等を行う制度）**

1. 建築物の建築等について、行為の制限を定める

① 形態意匠制限（形態、色彩、材質など）  
＜制限規定のイメージ＞  
屋根はいぶし瓦葺き又はヨシ葺きを原則とし、4～5寸勾配を設け、過度な軒の出を有すること  
西壁づくり又はそれに準ずる和風建築様式を継承した意匠とすること  
原則2階は後退させ、瓦葺きの軒庇とすること

② 高さ、壁面位置など  
届出制度により誘導（基準に適合しない場合は設計変更等を勧告できる）  
形態意匠は、条例で行為を指定すれば命令も可能

2. その他の計画事項を定める

**景観重要建造物・樹木** 建造物 樹木  
景観上重要となる建築物等を指定し積極的に保全（現状変更に対する許可制）  
その他、景観協などの制景観形



# 本事業における景観への取組み

1. 事業概要
2. 第1回アドバイザー会議における主な指摘内容
3. 景観区域周辺のまちづくり
4. 視点場の位置と眺望範囲
5. 歩行者・自転車の堤防道路等の利用状況
6. 周辺駅から事業箇所への距離
7. 景観資源の調和
8. 景観形成の基本方針
9. 景観配慮事項（色彩基準）
10. 景観形成の見本
11. 事業箇所の景観資源
12. 大和川に架かる主要橋梁
13. 大和川以外に架かる橋梁（耐候性鋼材）
14. 景観に留意すべき点（まとめ）
15. 景観対象物の構造検討

現状の把握

景観形成の把握

調査

# 1. 事業概要

## 【事業認可】

- ・ 認可期間：H29年11月22日～R9年3月31日
- ・ 延長：L=2.2km
- ・ 幅員：W=16.7～38.7m
- ・ 事業区間：【位置図】参照

## 【目的】

- ・ **防災機能の強化（緊急交通路の整備）**  
⇒大阪府中部防災拠点及び大阪府広域医療搬送拠点など**防災施設へのアクセス**
- ・ 交通ネットワークの強化  
⇒大阪中央環状線と国道170号の間に位置し環状機能を補完。  
⇒周辺交通の分散化による渋滞解消

## 【位置図】 広域緊急交通路

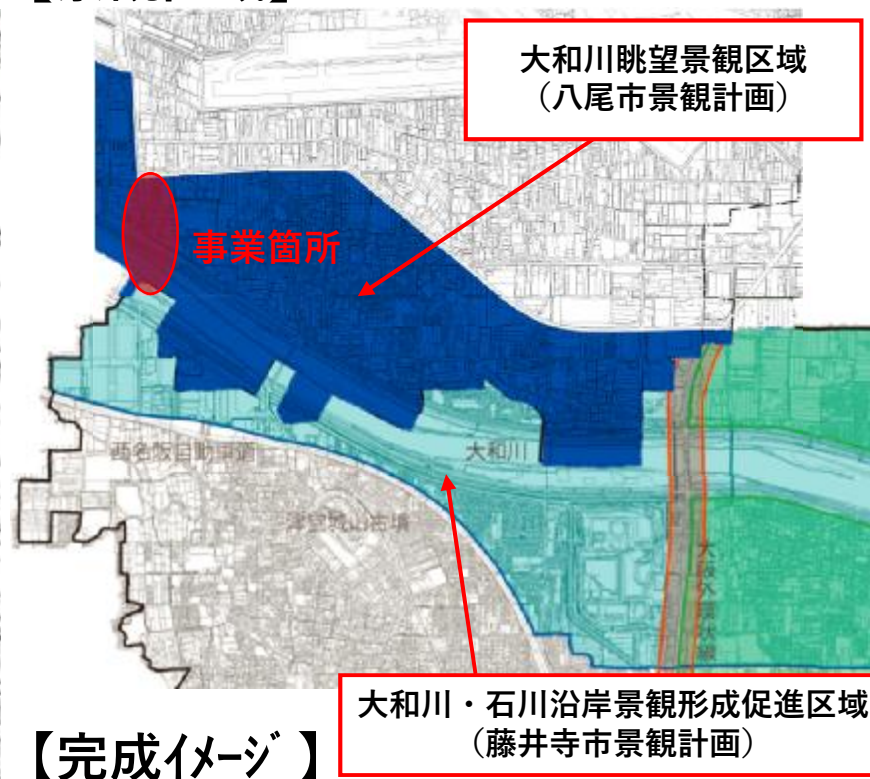


# 1. 事業概要

## 【平面図】



## 【景観区域】



## 【完成イメージ】



## 2. 第1回アドバイザー会議における主な指摘事項

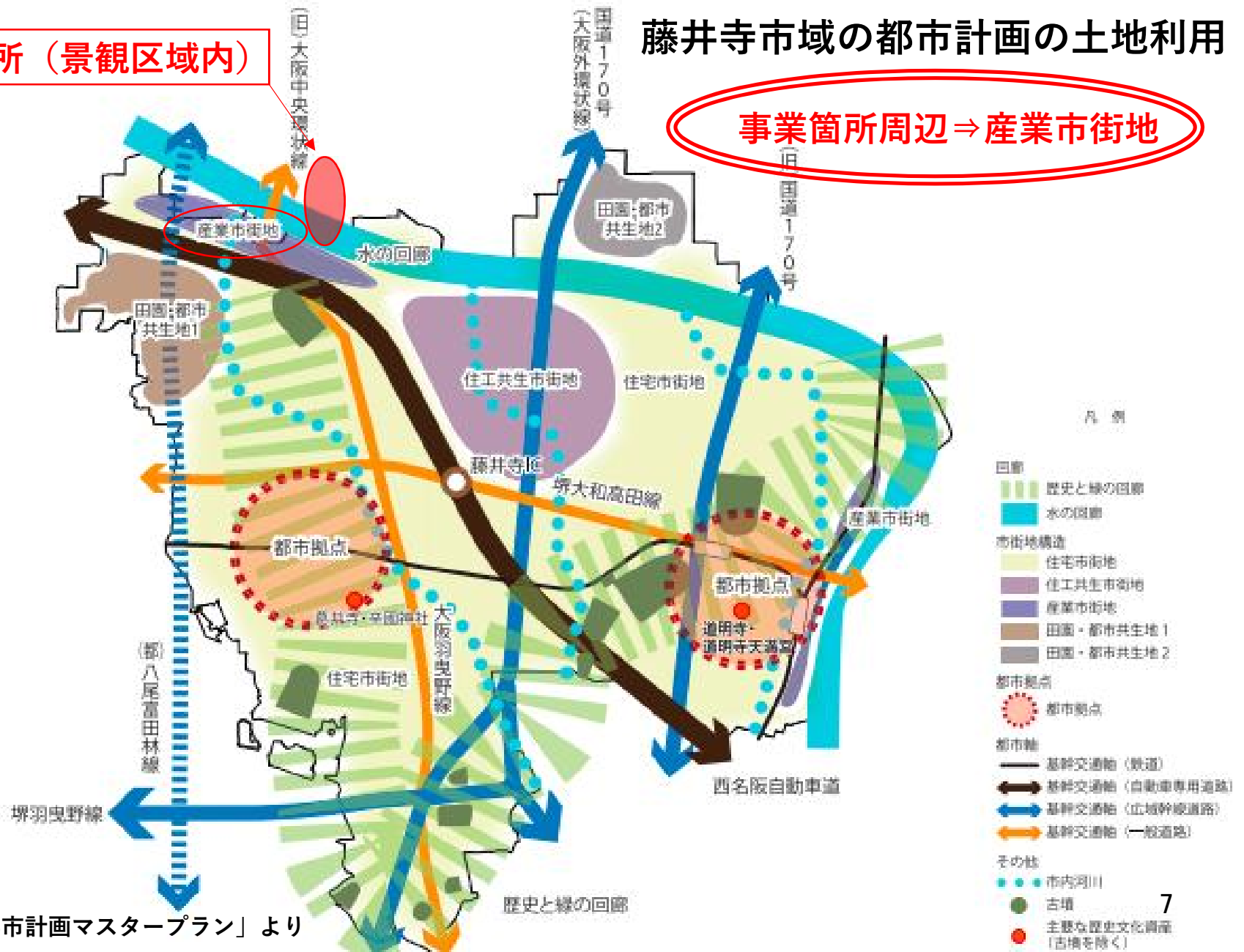
- 景観というものをよく認識し、検討すべき事項・配慮すべき視点に正しく回答
- ランドマークとして道路内外からどのように見えるか検討が必要
- 橋梁構造等の検討経緯が不明確
- 耐候性桁の色彩は目立つので、色の選択ができるのであれば考えてはどうか。桁裏・階段裏は高明度かつ低色彩の配慮すべき視点、合致していない。
- 道路照明や道路高欄などの道路施設については、背景等を考慮した検討が必要
- 高架下の緑化

### 3. 景観区域周辺まちづくり

事業箇所（景観区域内）

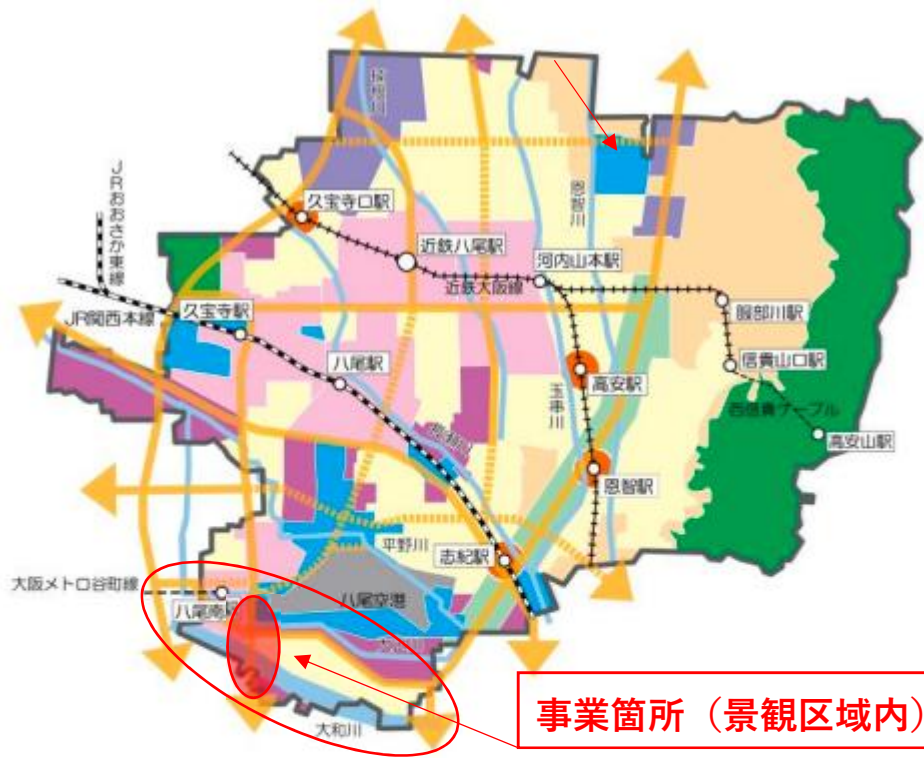
藤井寺市域の都市計画の土地利用

事業箇所周辺⇒産業市街地



「藤井寺市都市計画マスタープラン」より

### 3. 景観区域周辺まちづくり

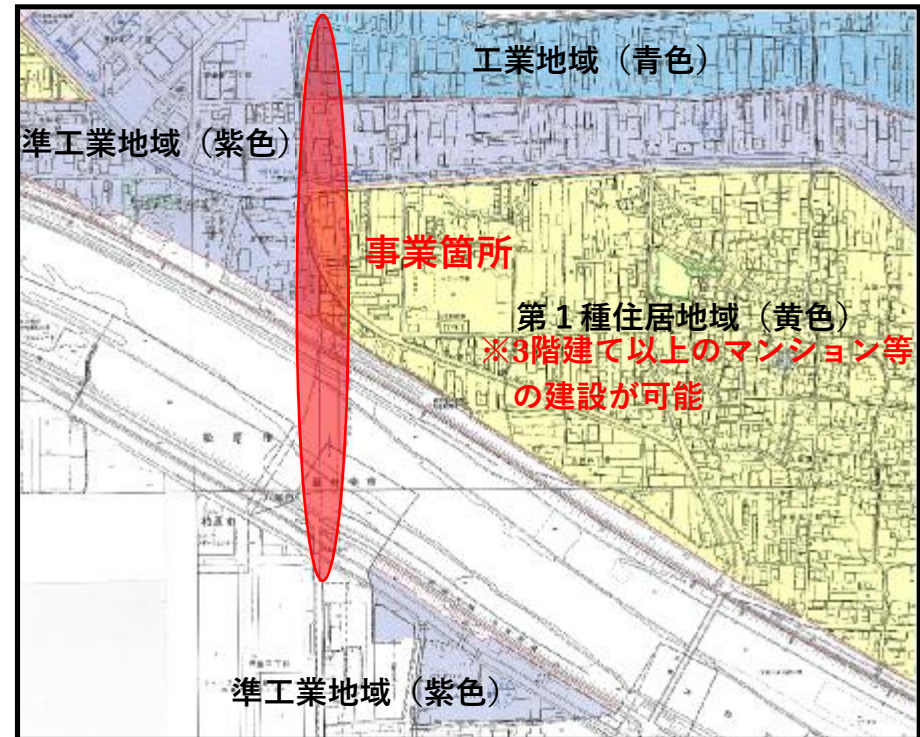


凡 例	
	都市機能集積ゾーン
	住宅ゾーン
	工業集積検討ゾーン
	沿道型商業・産業ゾーン
	自然・緑ゾーン
	近隣商業ゾーン
	住工共存ゾーン
	工業集積ゾーン
	農業・住環境保全ゾーン
	都市軸 (開通済)
	都市軸 (未開通)

### 八尾市域の都市計画の土地利用

事業箇所周辺 ⇒ 都市機能集積ゾーン  
住宅ゾーン

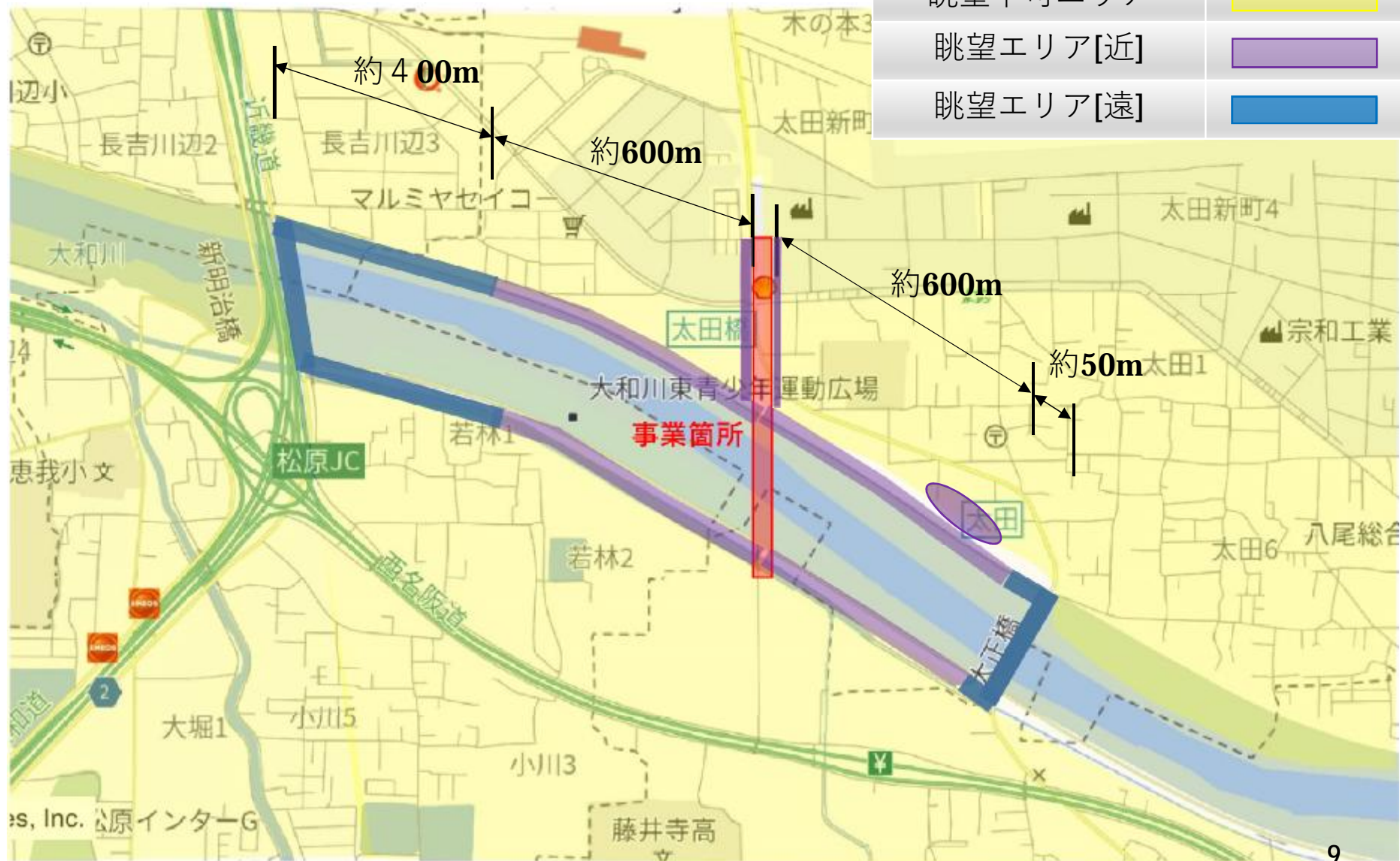
《都市計画図》





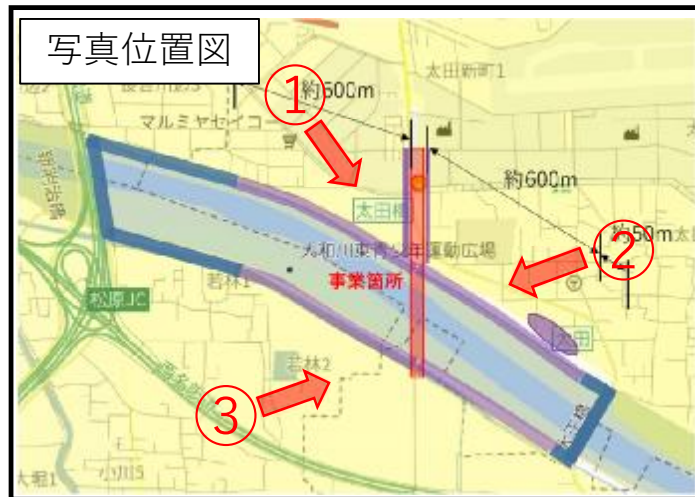
## 4. 視点場位置と眺望範囲

□視点場（道路以外）からの眺望状況



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□眺望不可エリア (  ) からの眺望写真



写真②



写真①



写真③



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□眺望可能エリア[近] (  ) からの眺望写真

写真②



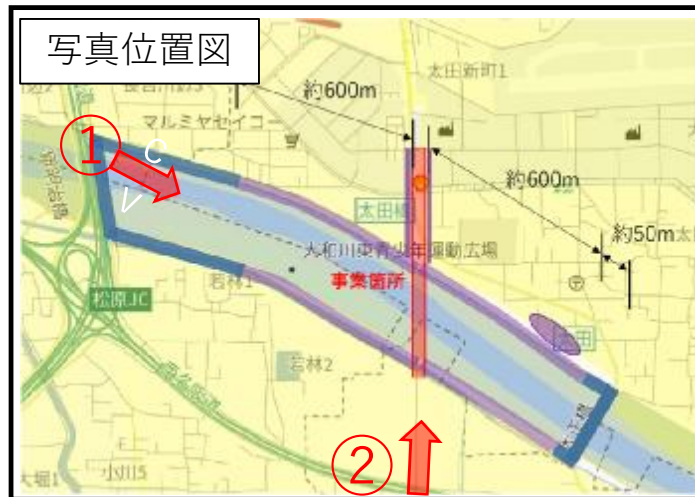
写真①



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□眺望可能エリア[遠] (  ) からの眺望写真

写真②



写真①



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□視点場（道路）からの眺望状況

凡例

大和川橋梁（歩道上）



連続高架（側道歩道上）



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□大和川橋梁[歩道上]付近 ( ● ) からの眺望写真  
写真②



写真①



## 4. 視点場位置と眺望範囲

□大和川橋梁[歩道上]付近 ( ● ) からの眺望写真



写真①



# 5. 歩行者・自転車の堤防道路等の利用状況

第1新明治橋



北側堤防



凡例

堤防道路（八尾市側）	
堤防道路（藤井寺市側）	
第1新明治橋（中環）	
大正橋（旧中環）	

※事業箇所まで距離があり、構造や色等の識別は困難

※周辺住民の散歩コース  
※自転車が時折走行

事業箇所

約1.0km

大正橋

歩道あり

歩道なし

水管橋



※歩道もなく自転車・歩行者の通行はほとんど見られない。

※橋梁上部西側には歩道がなく、歩行者の通行はない。

南側堤防





## 6. 周辺駅から事業箇所への距離

※八尾南駅以外の駅から事業箇所までは一般的に言われている徒歩圏内（約2.0km）には入らない。



## 7. 景観資源の調和

### 《既存のランドマーク》

#### 大和川の水とみどり豊かな自然的景観・原風景

⇒大和川は広大なオープンスペースとして機能し、河川敷では水と緑が調和した空間が形成され、市民生活にうるおいと安らぎをもたらしている

⇒堤防からは広がりのある眺望を得ることができる

#### 高安山など金剛生駒山系の山並み

⇒市街地からの眺望を縁取る緑の屏風のように目に映り、存在感がある景観要素したである

### 《新たなランドマーク》

#### 大和川橋梁

#### 連続高架橋梁



《調和》

《既存のランドマーク》 + 《新たなランドマーク》

## 8. 景観形成の基本方針

### 【藤井寺市】

- 古市古墳群や葛井寺などの地域固有の歴史文化景観を守り、育てる
- 藤井寺駅周辺など個性と魅力のある市街地景観や道路景観を創り、育てる
- 金剛・生駒山系や大和川・石川などうるおいのある水とみどりの自然的景観を守り、活かす**
- 藤井寺市に愛着がもてる景観づくりに協働で取り組む**

### 【八尾市】

- 水と緑と共生する景観づくり**
- 歴史と生活文化を活用した景観づくり
- 魅力ある都市景観づくり

## 9. 景観配慮事項（色彩基準）

### 【藤井寺市】

- 周辺景観に調和した色彩となるよう配慮する
- 外壁とは、外観の面積の内、着色していない部分、自然素材を用いている部分、広告物を表示・掲出している部分を除いた部分。

※耐候性鋼材は自然素材として認識（藤井寺市）

### 【八尾市】

- 地域の景観特性を把握し、周辺のまちなみや自然との調和を考慮した色彩を基本とすること。
  - 外壁については、落ち着きが感じられ、水や緑等の存在や周辺のまちなみ景観を防がないように配慮すること。
  - ただし、着色していない石材、木材、土壁、レンガ、**金属材、ガラス材等で仕上げた場合、前述の限りではない。**
- ※ 桁裏・階段裏は高明度かつ低彩度の色とすること

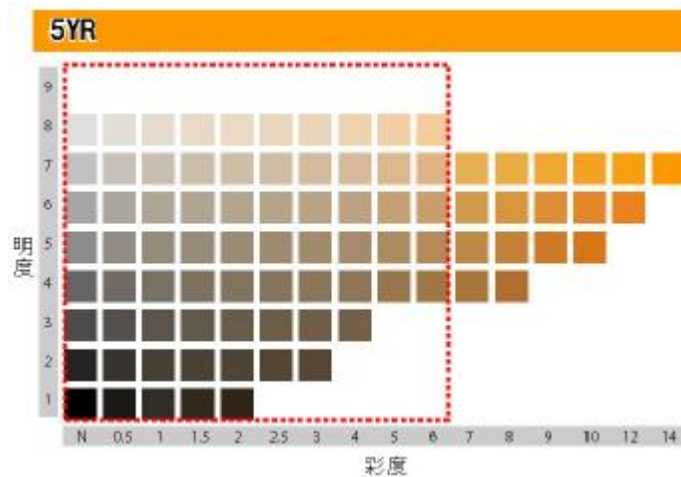
## 9. 景観配慮事項（色彩基準）

### ○藤井寺市の色彩基準

- ① Y R（橙）系の色彩の場合、彩度 6 以下
- ② R（赤）、Y（黄）系の色相の場合、彩度 4 以下
- ③ その他の色相の場合、彩度 2 以下

### ○八尾市の色彩基準

- ① R（赤）、Y R（橙）系の色相の場合、彩度 6 以下
- ② Y（黄）系の色相の場合、彩度、4 以下
- ③ その他の色相の場合、彩度 2 以下



※耐候性鋼材の色彩（憲房色）はマンセル値「5YR2/1」相当であり、藤井寺市及び八尾市の色彩基準を満足している。

## 1 1. 事業箇所の景観資源

□写真①（事業箇所の大和川河川堤防から海側を望む）

《既存のランドマーク》～大和川の水とみどり豊かな自然的景観・原風景～



## 1 1. 事業箇所の景観資源

□写真②（事業箇所の大和川河川堤防から山側を望む）

《既存のランドマーク》～金剛生駒山系や高安山系の山並み～



## 1 1. 事業箇所の景観資源

□写真③（大和川河川堤防の海側から事業箇所を望む）

《既存のランドマーク》～大和川の水とみどり豊かな自然的景観・原風景～





## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真①（参考：事業箇所下流）～大和川に架かる橋～

【第1新明示橋（大阪中央環状線）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真②（参考：事業箇所下流）～大和川に架かる橋～

【第1新明示橋（大阪中央環状線）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真③（参考：事業箇所下流）～大和川に架かる橋～

【第1新明示橋隣接（近畿自動車道高架下）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真④（参考：事業箇所上流）～大和川に架かる橋～

【大正橋（旧国道170号）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑤（参考：湾岸エリア）～大和川に架かる橋～

【大和川大橋（国道26号）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑥（参考：湾岸エリア）～大和川に架かる橋～  
【阪神高速15号線堺線】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑦（参考：市街地エリア）～大和川に架かる橋～

【遠里小野橋（大阪和泉泉南線）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑧（参考：市街地エリア）～大和川に架かる橋～

【鉄橋（南海高野線）】





## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑨（参考：市街地エリア）～大和川に架かる橋～  
【吾彦大橋（あびこ筋）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑩（参考：市街地）～大和川に架かる橋～

【行基大橋（大阪狭山線）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑪（参考：市街地）～大和川に架かる橋～

【鉄橋（近鉄奈良線）】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑫ (参考：市街地) ~大和川に架かる橋~

【鉄橋北詰 (近鉄奈良線)】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑬ (参考：市街地) ~大和川に架かる橋~

【鉄橋北詰 (近鉄奈良線)】



## 1 2. 大和川に架かる主要橋梁

□写真⑭ (参考：市街地) ~大和川に架かる橋~

【鉄橋北詰 (近鉄奈良線)】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真①（参考）～耐候性橋梁～

【府道茨木亀岡国道171号交差（大阪府）】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真②（参考）～耐候性橋梁～

【国道371号バイパスへの連絡橋（大阪府）】





## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真③ ~耐候性橋梁~

【稲敷大橋（茨城県）】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真④（参考）～耐候性橋梁～

【小田瀬大橋（秋田県）】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真⑤（参考）～耐候性橋梁～

【藤原大橋（愛媛県）】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真⑥（参考）～耐候性橋梁～

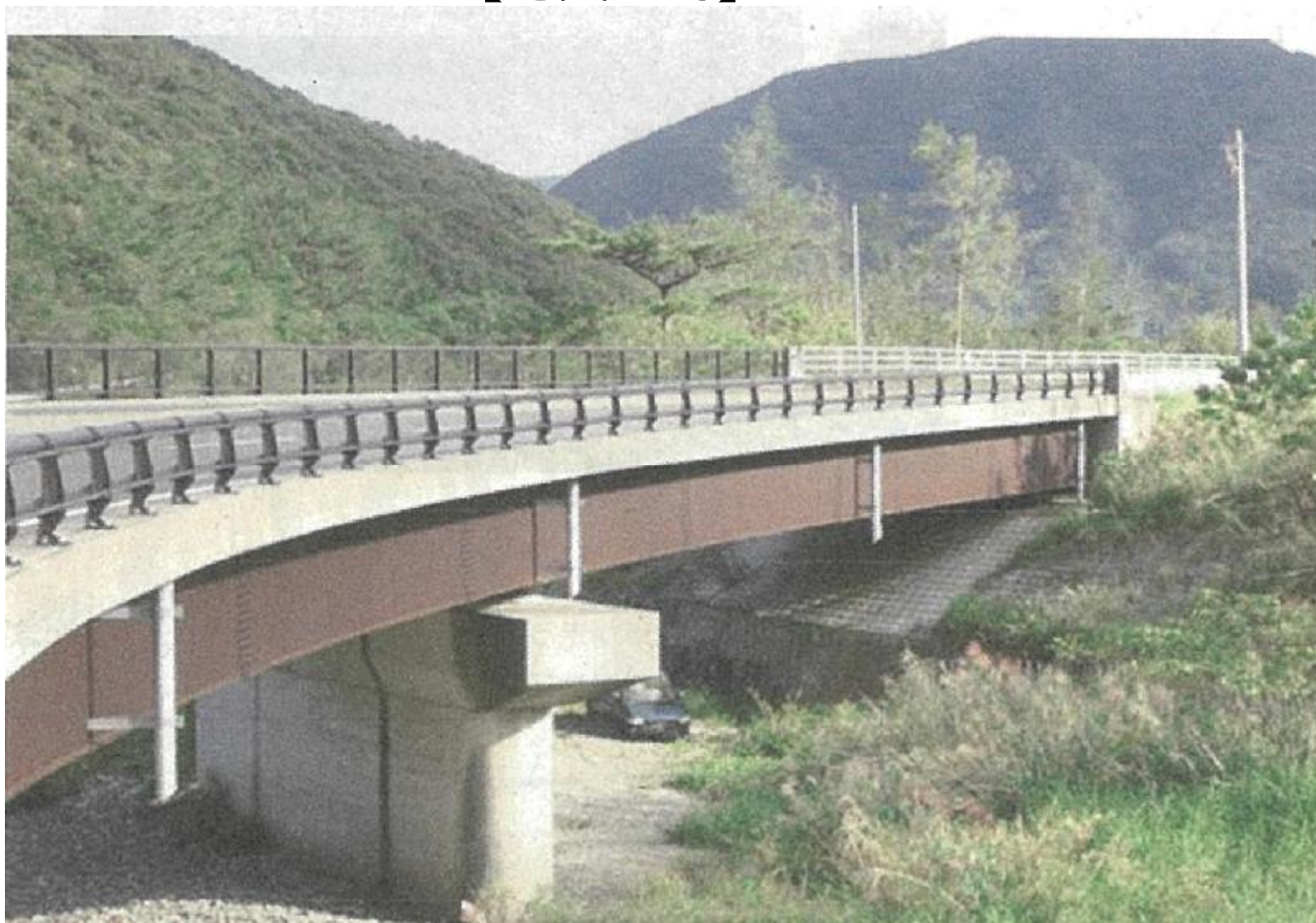
【美浜大橋（千葉県）】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真⑦（参考）～耐候性橋梁～

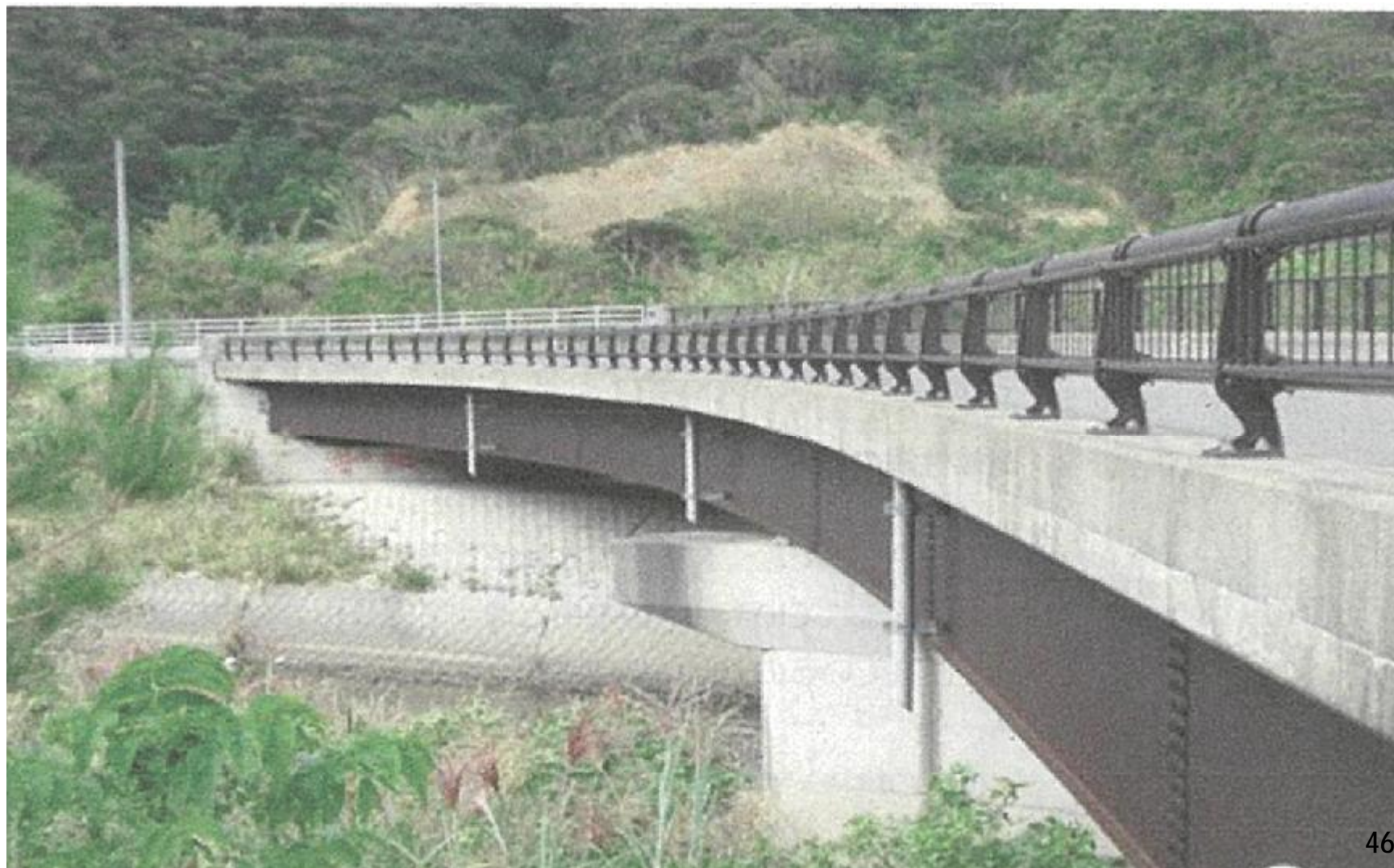
【奄美大島】



## 1 3. 大和川以外に係る橋梁（耐候性鋼材使用）

□写真⑧（参考）～耐候性橋梁～

【福島県】



## 14. 景観に留意すべき点（まとめ）

□以上までの内容を踏まえ、**景観に留意する点**は以下のとおり

- ①景観資源の把握
- ②周辺景観に馴染ませる工夫
- ③大和川の自然環境と橋梁と同等以上の高さを持つ  
周辺建物との調和
- ④生駒山系の山々のまでは距離があり、色彩はよく  
見て大別できる程度
- ⑤自然に近い素材（耐候性鋼材）の活用
- ⑥劣化や落書き対応など維持管理への配慮
- ⑦地下埋設等の添架はできるだけ避ける
- ⑧景観の維持管理への配慮
- ⑨自然素材に近い耐候性鋼材の憲房色とコンクリート  
（化粧型枠使用）の白色とのコントラストを活用し、  
圧迫感や威圧感を与えない
- ⑩**CIM（3次元データ）による景観シミュレーションの実施**

**全体としてよりよい景観形成につながっているか、  
地域の景観として総合的に捉える**

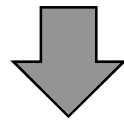
## 15. 景観対象物の構造物等

【大和川橋梁】～河川構造令上遵守しなければならない主な事項等～

### □ 下部構造の検討条件

- ・ 河川管理用通路の確保（**建築限界の確保**）
- ・ 洪水時の**流水に著しい支障与えないよう**、**橋脚形状は細長い小判型とし**、**設置方向は河川の流水方向に備える**
- ・ **河川阻害率を5%以下**  
※河川阻害率 = (河川内の橋脚幅 × 基数) ÷ 河川幅
- ・ 基礎の天端は**河床から2m以上深く設置**
- ・ **基準径間長以上の橋脚配置（基準径間長4.4m）**
- ・ 護岸施設内には橋脚を設置しない

以上の条件を満たす構造とする必要がある



**鉄筋コンクリート構造**の橋台・橋脚が必須

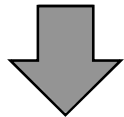


## 15. 景観対象物の構造物等

【大和川橋梁】～河川構造令上遵守しなければならない主な事項等～

上部構造の検討条件

- ・ 基礎構造や耐震等を考慮した橋長・橋種を検討
- ・ LCC（ライフサイクルコスト）の最小値



橋長から鋼製桁が必須（耐候性鋼材の使用）

《その他構造の検討条件》

高欄構造（本線部）

- ・ 車両の衝突・落下、風力等を考慮した構造  
⇒ 鉄筋コンクリート高欄

高欄構造（歩道部）

- ・ 自転車・歩行者の落下、風力等を考慮した構造  
⇒ 鉄製高欄

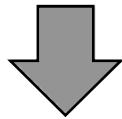
道路・歩道照明灯（本線部・歩道部）

- ・ 交通安全等を考慮した配置  
⇒ 建築限界の確保及び照度分布等から支柱形状・本数を決定

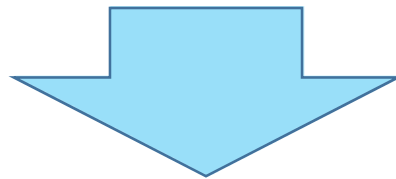
## 15. 景観対象物の構造物等

### 【連続高架橋梁】

- 上部・下部構造の検討条件
  - ・ 交差道路の**通行及び建築限界の確保**
  - ・ LCC（ライフサイクルコスト）の最小値



**下部構造：鉄筋コンクリート構造の橋脚が必須**  
**上部構造：橋長から鋼製桁が必須（耐候性鋼材の使用）**



**なぜ耐候性鋼材を橋梁に適用するのか？**

## 15. 景観対象物の構造物等

### 【耐候性鋼材の特徴】

- 耐候性鋼とはCu(銅)、Cr(クロム)、Ni(ニッケル)等の合金元素を含有し、**無塗装**のまま年月の経過とともに表面に緻密で密着性の高いさびを形成する鋼材
- 錆は内部にほとんど進行することなく、**内部まで浸食されることはない。LCC（ライフサイクルコスト）を低く抑えることができる**
- **200年以上半永久的に強度特性が安定すると想定**
- 溶接性に優れ、部材製作、補強や橋梁機能向上のための**工事も容易。**
- 年月が経つほど色調に深みが出るため、**デザインとして採用されるケースがある。**

# 15. 景観対象物の構造物等

## 【耐候性鋼材の適用にあたって】

□ 飛来塩分量が0.05mdd以下の地点では、無塗装で使用可能

耐候性鋼材を無塗装で使用する場合の適用地域  
 「H29道路橋示方書 P144」

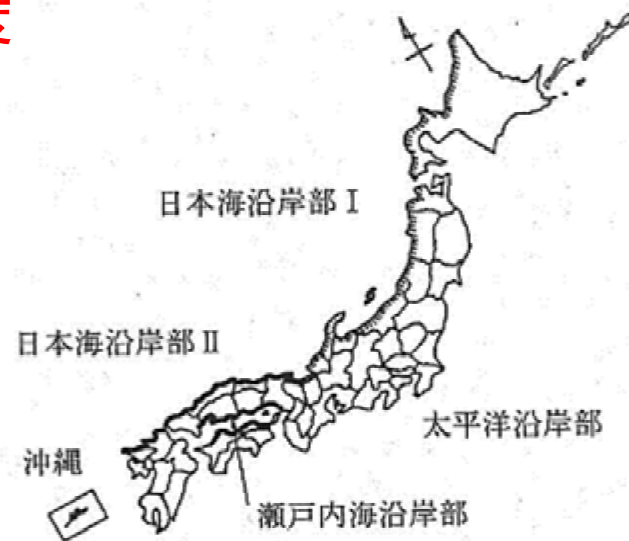
【大和川橋梁】：離岸距離 11km程度

### 《参考情報》

- ※日本海・太平洋・瀬戸内等の沿岸部で橋梁に鋼材を使用する場合は、耐候性鋼材の使用の有無にかかわらず塩害による腐食防止として塗装が必要となる。
- ※沿岸部で道路橋梁を設置する場合、地形・地質条件や航路条件等から長大橋（吊り橋・アーチ橋等）になるのは必須である。

### 【航路条件】

項目	瀬浜航路		新港航路 (水深13m)	第二航路	神戸西航路 (第一航路) (水深12m)	
	主航路	副航路				
航路幅	300m	50m	400m	120m	300m	
航路高さ	航路高	+54.6m	+52.4m	+65.7m	+28.1m	+59.4m
	T.P.	+55.7m	+53.5m	+66.8m	+29.2m	+60.5m

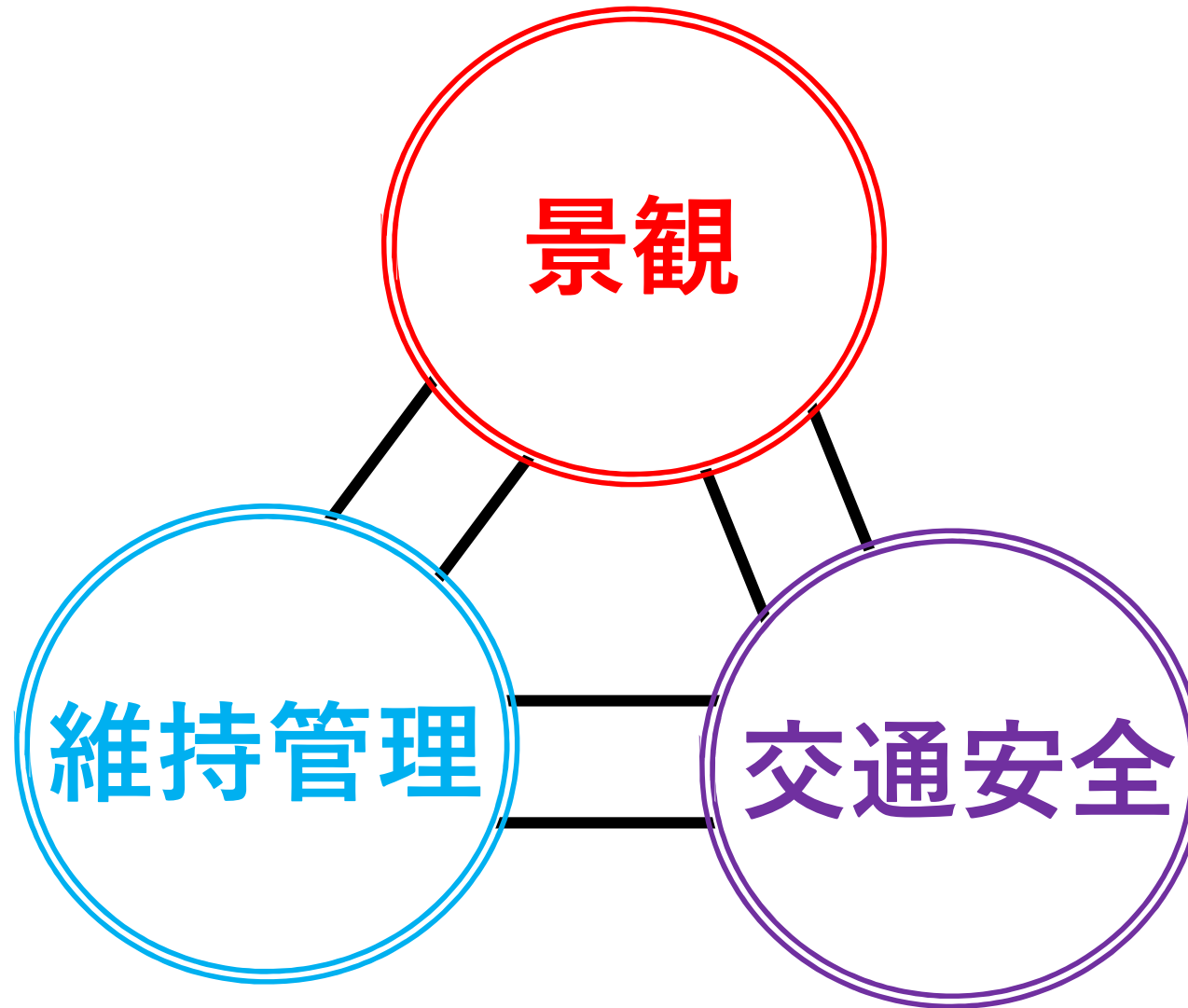


地域区分		飛来塩分量の測定を省略してよい地域
日本海沿岸部	I	海岸線から 20km を超える地域
	II	海岸線から 5km を超える地域
太平洋沿岸部		海岸線から 2km を超える地域
瀬戸内海沿岸部		海岸線から 1km を超える地域
沖縄		なし

図-解 7.1.1 耐候性鋼材を無塗装で使用する場合の適用地域

## 15. 景観対象物の構造物等

### 【三位一体の検討】



## 第2回アドバイザー会議

～ランドマークとなる新たな構造物等への具体的な対応～

## 具体的な対応

1. 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答
2. 景観配慮チェックリスト【八尾市】
3. 公共施設景観ガイドライン チェックシート【藤井寺市】

(ドローンによる撮影写真との合成)



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

## 【第1回会議からの考え方・構造等の主な追加・変更点】

- 「ランドマークは意識していない」から「ランドマークになることを意識して検討」
- 「既存分部との連続性は意識する必要はない」から「既存分部との連続性を意識して検討」
- 「橋上にポケットスペースを設ける予定はない」から「歩道橋の計画幅員の中で安全に眺望が楽しめる空間が確保できる」
- 「高架下の景観に対する配慮はしていない」から「高架下の景観を配慮して検討」
- 「住宅地や駅前など地域特性は考えていない」から「地域特性を考えて検討」
- 「夜間の回遊等は考えていない」から「夜間の回遊等を考慮し検討」
- 「耐候性鋼材の色彩を憲房色とする」から「耐候性鋼材そのものの素材色を考慮」
- 防護柵・照明柱・舗装（自転車道・歩道）の色彩・形状の景観詳細検討
- 橋脚の曲線化（面取り）の検討
- 橋脚の排水スリットの検討
- 照明形式の検討（光の干渉、歩道橋は低位置照明）
- 化粧型枠の検討（スリット状）



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

## 第1回景観アドバイザー会議のご意見に対する回答

対象	先方のご意見	事業者の見解
全体 (景観に対する 考え方)	検討すべき事項・配慮すべき視点に一言一句、正しく回答すること	以下の通り
	景観というものをどう認識しているかが重要	対象がどのような環境の中にあり、どのような景観となるか意識した説明を行う。
橋梁全体	・ランドマークにならざるを得ない ・周りから見たときにどのように見えるか検討が必要	・ランドマークとして認識して、河川堤防上、運動広場、近接橋等からどのように見えるかビジュアルで提示する。(CIM検討)
橋梁線形	線形の検討経緯(平面)	・平面線形は、都市計画道路決定時に公有地の活用や既存施設への影響を考慮し、経済性・地域への影響を総合的に評価し決定しているが、河川交差角度等の景観への十分な配慮はできていない ・そのほかの要素で景観へのインパクトを抑える検討を行った。
	線形の検討経緯(縦断)	・縦断線形は、各横断道路・交差河川から縦断線形が決まっており景観への十分な配慮ができていない ・そのほかの要素で景観へのインパクトを抑える検討を行った。
橋梁の構造 (全体)	薄く軽やかに、なるべくシンプルにすっきりまとめたい、というのが一つのコンセプト	・橋梁形式や径間数については、経済性・施工性のほか、部材数が少ない構造等を評価に加え、シンプルな構造を検討した。 ・上部構造の桁高が異なり桁側面で形状変化が生じる区間は、桁下は直線ではなく有機的な曲線で擦りつけを行うなど、暖かみのある構造とした。
橋梁の構造 (下部工)	橋脚の構造が統一されていないことは連続性に欠ける	・下部工は、柱角部の曲面化を図るなど威圧感の抑制に努めた。〔参考資料〕参照) また、一部化粧型枠などによる意匠を加えることも検討する。 ・大和川堤防北側(旧中以南)の橋脚の形状が一部異なるが、限られた土地の中で橋脚と歩道・自転車道の構造を両立させた結果、交通安全上このような形状となった。この橋脚下だけ歩道・自転車道として利用しており、大和川渡河橋へのエントランスとして役割を担えると考えている。
橋梁の付属物		排水管は、できる限り橋上での排水に努め、露出配管は限定的なものとした。露出配管部分は、桁色等と同系色とし、橋脚部ではスリットを設けるなど配管が目立つことを避けた。
道路外からの眺望	河川の景観は、川の水面と奥に見える山系との自然美との一体性を考慮	どのような場所を視点場として考え、どのように見えるのかビジュアルで提示する。(CIM検討)
桁の色彩 (全体)	憲房色はとも目立つもう少し色が選択できるのであれば、考えられたほうが良い	耐候性鋼材(化成処理済み)のさび色は比較的地味な褐色か黒褐色 (1) 緑色と同様に人間の気持ちを落ち着かせる。 (2) 緑色やコンクリートによく調和する。 (3) 構造物の安定感をもし出す。 (4) (保色性に優れる) などの特徴があり、大和川景観眺望地域では、生駒山の緑、河川の緑と調和すると考えている。 市街地においては、安定性を感じさせるものであり、架設当初は目新しいものとして認識されるが、馴染んでくるものと考えている。

桁の色彩 (桁裏)	桁裏・階段裏は高明度かつ低色彩の色との基準に対し、対候性鋼材の茶色は合致していない	桁下においてはさび色が重量感を感じさせる可能性があり、高架下の道路沿いに植栽を設けるなど配慮し、さび色だけでないトータルの色彩で調和を検討した。 (基準と外れるが、当該地での周辺との調和を説明)
高架下利用	市民目線の景観としては、気になるポイントである	沿道施設への通行機能の確保や橋梁点検のための土地として必要なため、現時点では確定した検討が困難。高架下における部分的な緑化検討や管理用のフェンス等はブラウンで色彩検討を行った。
道路内からの眺望	歩行時の眺望	・橋梁上は、歩道と自転車道が構造的に分離されており、幅員(4.5m)も確保されていることから歩道は安全に立ち止まって眺望を楽しむことができる。 ・視点場となる橋梁上の歩道部分については、ベンガラ色で色彩検討を行った。 ・現道から堤防道路までは、堤防緑化との連続性を確保した緑化検討を行った。 ・桁下に部分的に緑化を図ることで重量感の緩和に努めた。
	走行時の眺望	自動車通行時は壁高欄(H=800)が整備されており際立つて特筆すべき眺望はないが、自転車道が整備されており、安全・快適に走行できるものと考えている。
盛土区間	構造上必要最低限の盛土としたため、特段の配慮はしていないは不可	・橋梁アプローチの盛土区間は、必要最小限の区間とし壁面積を抑制している。表面については、化粧型枠・化粧ブロックを使用し、圧迫感が少なくし、一体性を確保した壁面とした。 ・一部、残地がある空間については、他の利用用途がない場合は、緑化等を検討する。
道路照明	・夜間景観が良好になるように配慮 ・3本の橋梁が近接している特殊性 ・光による害が生じないように配慮(生態環境は対象外)	・道路外への照度や側方への明るさを踏まえて複数案で比較(「参考資料③」参照)
欄干	背景が何かを考えて検討	・標準品・景観対応品などでの景観的な違いを比較(色彩含む) ・橋上歩道外側からは見上げる視線、中側からは河川敷が背景となるため、銀色・グレーを検討。地上部は、ダークブラウンを検討。
道路舗装	自転車道もすべて青色でなくてもよいのでは	交差点部分や起終点などは自転車通行帯の明示が必要なため限定的な着色とした。中間部は進行方向を示す矢印・矢羽根等を検討した。 ・堤防へ上がる道路は、歩道・自転車道のみとなるため、歩道部をベンガラ着色、自転車道を一部青塗装・矢印等で明示することを予定。
緑の確保		自転車関連の事故が半数に減少する中、自転車と歩行者の事故は1割減と横ばい状態。設計速度60kmの道路では歩行者と自転車を分離させた構造が望ましいため、自転車道の整備を優先した。 残地や高架下等の部分的な緑化を行い、最小限の歩道幅員の中での緑化方法については適宜検討を行いたい。

# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

全 体 (景観に対する 考え方)	検討すべき事項・配慮すべき視点に 一言一句、正しく回答すること	以下の通り <b>①</b>
	景観というものをどう認識している かが重要	対象が <b>どのような環境の中にあり、どのような景観となる か意識</b> した説明を行う。
橋梁全体	・ランドマークにならざるを得ない ・周りから見たときにどのように見えるか 検討が必要	<b>②</b> ランドマークとして認識して、河川堤防上、運動広場、 近接橋等からどのように見えるか <b>ビジュアルで提示</b> する。 (CIM検討) <b>③</b>

**①・②**：「第2回府市合同景観アドバイザー会議【参考資料】」  
のとおり

**③**：CIM（3D画像）を活用した客観的評価の取り入れ  
⇒資料**④**

## ※CIMとは

CIM（Construction Information Modeling / Management、コンストラクションインフォメーションモデリング/マネージメント）とは、土木工事において**3次元**のデータ（**3次元モデル**）と各種のデータを結びつけて活用すること（**3次元モデルでの情報共有が可能**）

# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

橋梁線形。	線形の検討経緯（平面）。	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面線形は、都市計画道路決定時に公有地の活用や既存施設への影響を考慮し、経済性・地域への影響を総合的に評価し決定しているが、河川交差角度等の景観への十分な配慮はできていない。</li> <li>・そのほかの要素で景観へのインパクトを抑える検討を行った。</li> </ul>
。	線形の検討経緯（縦断）。	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦断線形は、各横断道路・交差河川から縦断線形が決まっておりますが、景観への十分な配慮ができていない。</li> <li>⑥</li> <li>・そのほかの要素で景観へのインパクトを抑える検討を行った。</li> </ul>

④・⑤：「平面線形」・「縦断線形」の変更は、都市計画法及び交差する道路・河川の構造・維持管理上困難

⑥：周辺景観に馴染ませる工夫を行う

- ・ 橋梁下部・上部及び付属物の検討
- ・ 橋梁の色彩の検討
- ・ CIM活用
- ・ 大和川や他地域に架かる橋の調査 等

# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

橋梁の構造。 (全体)。	薄く軽やかに、なるべくシンプルにすっきりまとめたい、というのが一つのコンセプト。	・橋梁形式や径間数については、経済性・施工性のほか、部材数が少ない構造等を評価に加え、シンプルな構造を検討した。 ・ <b>上部</b> 構造の桁高が異なり桁側面で形状変化が生じる区間は、 <b>桁下は直線ではなく有機的な曲線で擦りつけ</b> を行うなど、暖かみのある構造とした。
-----------------	--	--

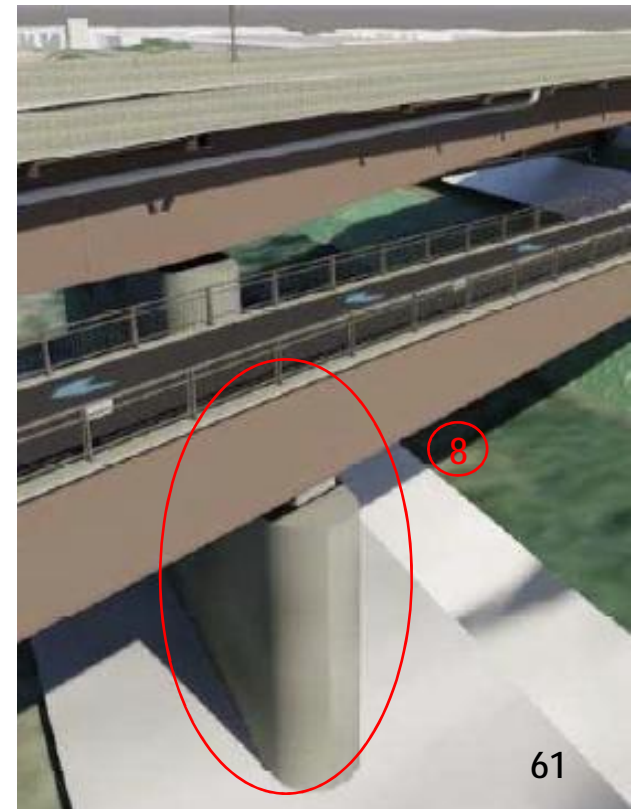
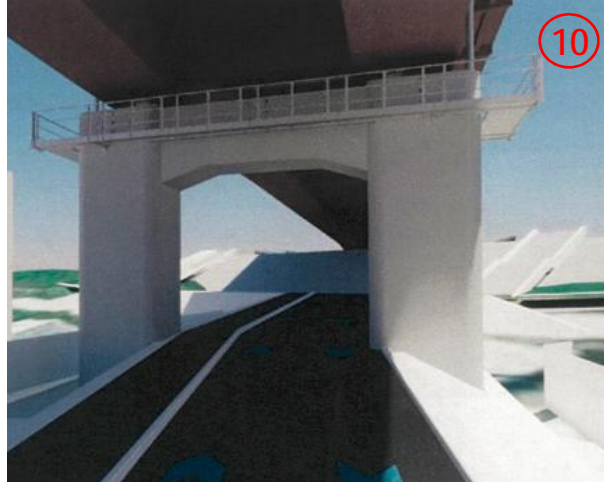
## ⑦：桁下は曲線で擦りつけ



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

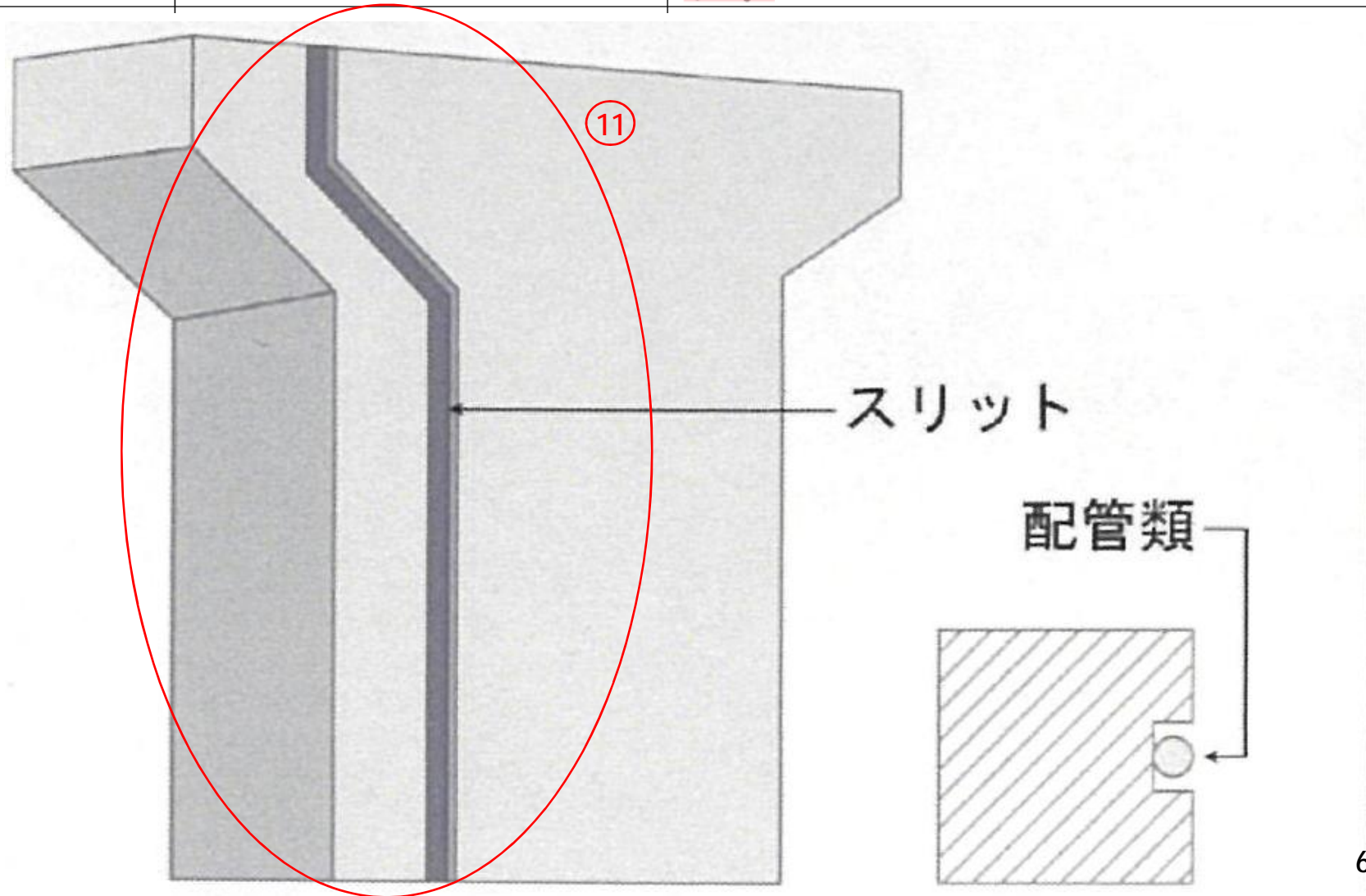
橋梁の構造 (下部工)	橋脚の構造が統一されていないことは連続性に欠ける。	⑧ ・下部工は、柱角部の曲面化を図るなど威圧感の抑制に努めた。(「参考資料③」参照) また、⑨ 一部化粧型枠などによる意匠を加えることも検討。 ・大和川堤防北側(旧中以南)の橋脚の形状が一部異なるが、限られた土地の中で橋脚と歩道・自転車道の構造を両立させた結果、交通安全上このような形状となった。この⑩ 橋脚下だけ歩道・自転車道として利用しており、大和川渡河橋へのエントランスとして役割を担えると考えている。
----------------	---------------------------	--

⑧ 面取りを行う		コーナーの面取りを大きくしたり、面取りの形状を変えることによってスリムな感じを与える。
⑨ スリットやストライプを入れる		縦のスリットやストライプを設けることにより縦の方向性を強調し、スリムな感じを与える。 化粧型枠等を用いて質感を変えることによって効果を強調できる。



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

橋梁の付属物。	。	排水管は、できる限り橋上での排水に努め、露出配管は限定的なものとした。露出配管部分は、桁色等と同系色とし、橋脚部ではスリットを設けるなど配管が目立つことを避けた。
---------	---	---



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

道路外からの眺望。	河川の景観は、川の水面と奥に見える山系との自然美との一体性を考慮。	どのような場所を視点場として考え、どのように見えるのかビジュアルで提示する。(CIM 検討)
桁の色彩 (全体)	憲房色はとても目立つ。 もう少し色が選択できるのであれば、考えられたほうが良い。	耐候性鋼材(化成処理済み)のさび色は比較的地味な褐色か黒褐色。 (1) 緑色と同様に人間の気持ちを落ち着かせる。 (2) 緑色やコンクリートによく調和する。 (3) 構造物の安定感をかもし出す。 (4) (保色性に優れる) などの特徴があり、大和川景観眺望地域では、生駒山の緑、河川の緑と調和すると考えている。 市街地においては、安定性を感じさせるものであり、架設当初は目新しいものとして認識されるが、馴染んでくるものと考えている。
桁の色彩 (桁裏)	桁裏・階段裏は高明度かつ低色彩の色との基準に対し、耐候性鋼材の茶色は合致していない。	桁下においてはさび色が重量感を感じさせる可能性があり、高架下の道路沿いに植栽を設けるなど配慮し、さび色だけでないトータルの色彩で調和を検討した。 (基準と外れるが、当該地での周辺との調和を説明)

**CIMを活用し、全体としてよりよい景観形成につながっているか、地域の景観として総合的に捉える**



資料④

# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

高架下利用。	市民目線の景観としては、気になるポイントである。	沿道施設への通行機能の確保や橋梁点検のための土地として必要なため、現時点では確定した検討が困難。高架下における部分的な緑化検討や管理用のフェンス等はブラウンで色彩検討を行った。
--------	--------------------------	--



## 付属物の色彩

13 付属物（防護柵、照明柱）の色は、ブラウン系やグレー系の落ち着いた色が基本

表 3.1.2 鋼製防護柵において基本とする色彩のマンセル値

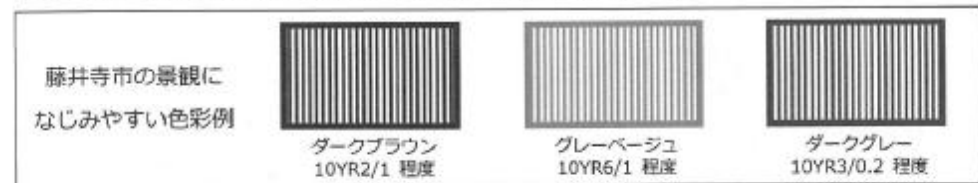
基本色名称	マンセル値
ダークグレー(濃灰色)	10YR3.0/0.2
ダークブラウン(こげ茶色)	10YR2.0/1.0
オフグレー(薄灰色)	5Y7.0/0.5
グレーベージュ(薄灰茶色)	10YR6.0/1.0

「景観に配慮した道路付属物ガイドライン P.26」抜粋  
(道路のデザインに関する検討委員会)

## (3) 照明灯、車止め、人止め柵、案内標識、設備等の色彩について

ポール類やフェンス類、電気設備などの盤類は、道路や川沿いなどに連続して用いられる要素です。周辺の自然やまちなみとの調和に配慮し、他の工作物との統一感のある色彩、周辺景観の中で必要以上に目立たない塗装色を選定します。

古墳周辺・近傍地区に設けるものは、ダークブラウン又はダークグレーを原則とし、その他の地域では、彩度の高いグレーベージュなどを候補に加えます。また、駅前などで都市的な景観を演出する場合は、アルミ色（シルバー）を用いることも可とします。



藤井寺市の景観に  
なじみやすい色彩例

ダークブラウン  
10YR2/1 程度

グレーベージュ  
10YR6/1 程度

ダークグレー  
10YR3/0.2 程度

「藤井寺市公共施設景観ガイドライン P.53」抜粋



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

道路内からの眺望。歩行時の眺望。	橋梁上は、歩道と自転車道が構造的に分離されており、幅員(4.5m)も確保されていることから歩道上は安全に立ち止まって眺望を楽しむことができる。
走行時の眺望。	自動車通行時は壁高欄(H=800)が整備されており際立って特筆すべき眺望はないが、自転車道が整備されており、安全・快適に走行できるものと考えている。

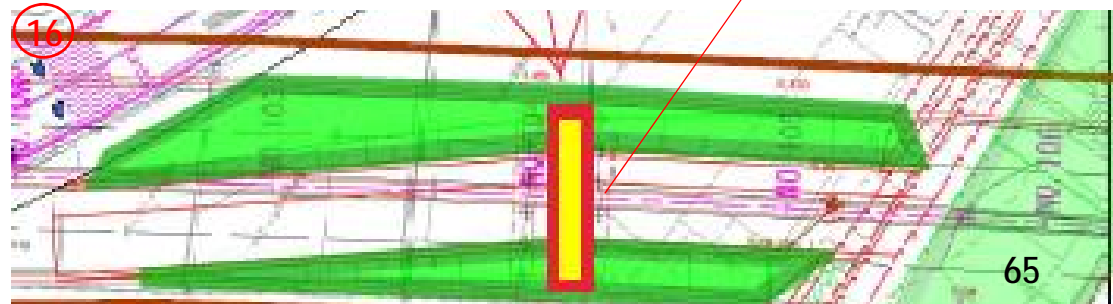
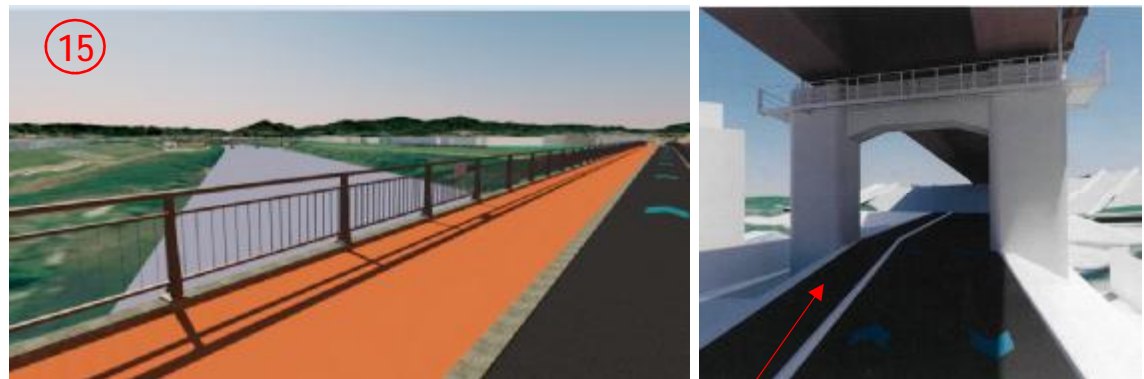
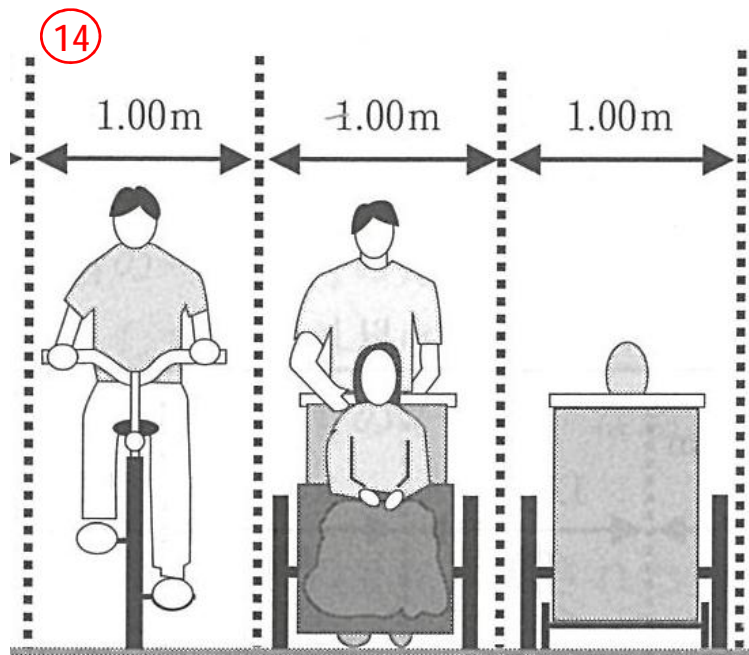
⑭ 橋梁上は、歩道と自転車道が構造的に分離されており、幅員(4.5m)も確保されていることから歩道上は安全に立ち止まって眺望を楽しむことができる。 ⑮

・視点場となる橋梁上の歩道部分については、ベンガラ色で色彩検討を行った。 ⑯

・現道から堤防道路までは、堤防緑化との連続性を確保した緑化検討を行った。

・桁下に部分的に緑化を図ることで重量感の緩和に努めた。

自動車通行時は壁高欄(H=800)が整備されており際立って特筆すべき眺望はないが、自転車道が整備されており、安全・快適に走行できるものと考えている。



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

<p>道路照明 ◦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間景観が良好になるように配慮 ◦</li> <li>・ 3本の橋梁が近接している特殊性 ◦</li> <li>・ 光による害が生じないように配慮 (生態環境は対象外) ◦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路外への照度や側方への明るさを踏まえて複数案で比較 (「参考資料③」参照) ◦</li> </ul>
---------------	--	--

⑧ 光の干渉に注意し総合的にデザイン



車道：照明柱(中分)  
歩道：照明柱



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

欄干。	背景が何かを考えて検討。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準品・景観対応品などでの景観的な違いを比較（色彩含む）。</li> <li>・橋上歩道外側<sup>17</sup>は見上げる視線、中側<sup>18</sup>らは河川敷が背景となるため、銀色・グレーを検討。地上部は、ダークブラウンを検討。</li> </ul>
道路舗装。	自転車道もすべて青色でなくてもよいのでは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点部分や起終点などは自転車通行帯の明示が必要のため限定的な着色とした。中間部は進行方向を示す矢印・矢羽根等を検討した。</li> <li>・堤防へ上がる道路は、<sup>19</sup>歩道・自転車道のみとなるため、歩道部をベンガラ着色、自転車道の一部青塗装・矢印等で明示することを予定。</li> </ul>

17



自然素材に近い耐候性鋼材の憲房色とコンクリート（化粧型枠使用）の白色とのコントラストを活用し、圧迫感や威圧感を与えない

18

## 付属物の色彩

付属物（防護柵、照明柱）の色は、ブラウン系やグレー系の落ち着いた色が基本

表 3.1.2 鋼製防護柵において基本とする色彩のマンスセル値

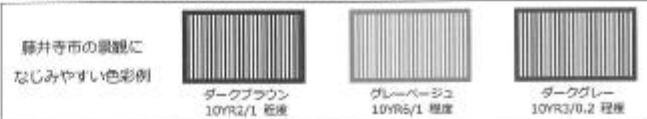
基本色名称	マンセル値
ダークグレー（濃灰色）	10Y R3.0/0.2
ダークブラウン（こげ茶色）	10Y R2.0/1.0
オフグレー（薄灰色）	5Y 7.0/0.5
グレーベージュ（薄灰茶色）	10Y R6.0/1.0

「景観に配慮した道路付属物ガイドラインP.26」抜粋  
（道路のデザインに関する検討委員会）

## (3) 照明灯、車止め、人止め柵、案内標識、設備等の色彩について

ポール類やフェンス類、電気設備などの設備は、道路や川沿いなどに連続して用いられる要素です。周辺の自然やまちなみとの調和に配慮し、他の工作物との統一感のある色彩、周辺景観の中で必要以上に目立たない遠景色を選定します。

古墳周辺・近隣地区に設けるものは、ダークブラウン又はダークグレーを原則とし、その他の地域では、彩度の高いグレーベージュなどを候補に加えます。また、駅前などで都市的な景観を演出する場合は、アルミ色（シルバー）を用いることも可とします。



藤井寺市の景観になじみやすい色彩例

ダークブラウン  
10YR2/1 程度

グレーベージュ  
10YR5/1 程度

ダークグレー  
10YR3/0.2 程度

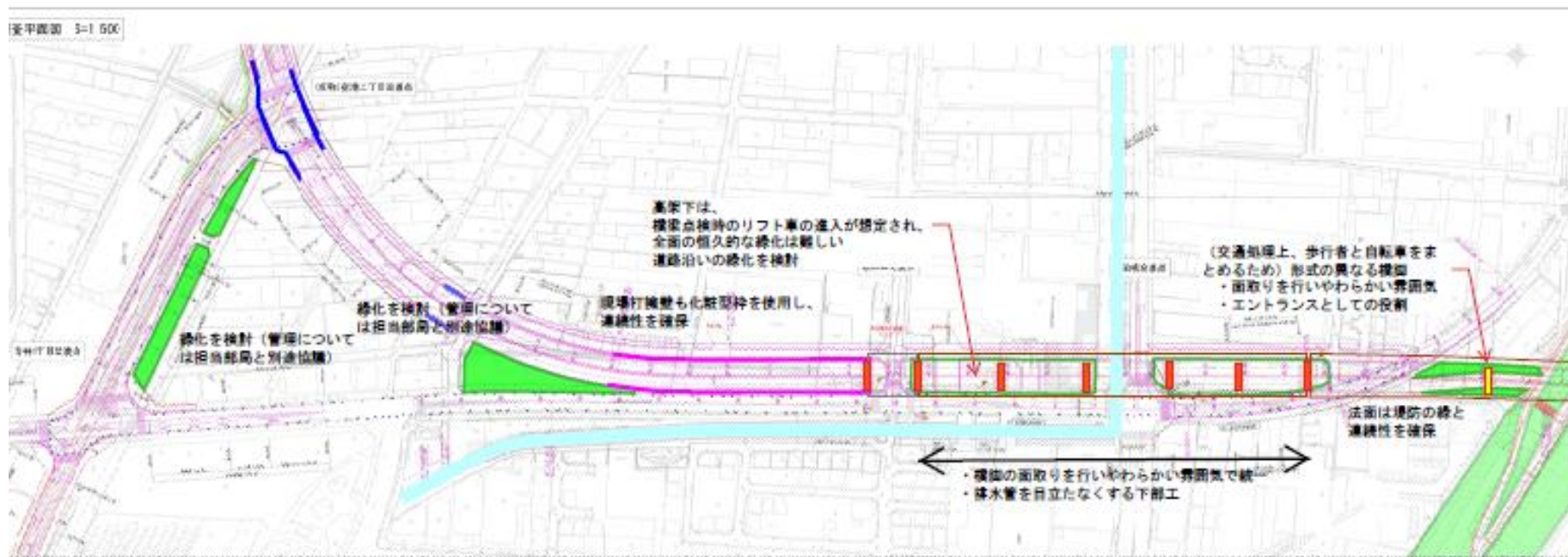
「藤井寺市公共施設景観ガイドラインP.53」抜粋

19



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

<p>緑の確保</p>	<p>↪</p>	<p>自転車関連の事故が半数に減少する中、自転車と歩行者の事故は1割減と横ばい状態。設計速度60kmの道路では歩行者と自転車を分離させた構造が望ましいため、自転車道の整備を優先した。</p> <p>残地や高架下等の部分的な緑化を行い、最小限の歩道幅員の中での緑化方法については適宜検討を行いたい。</p>
-------------	----------	--

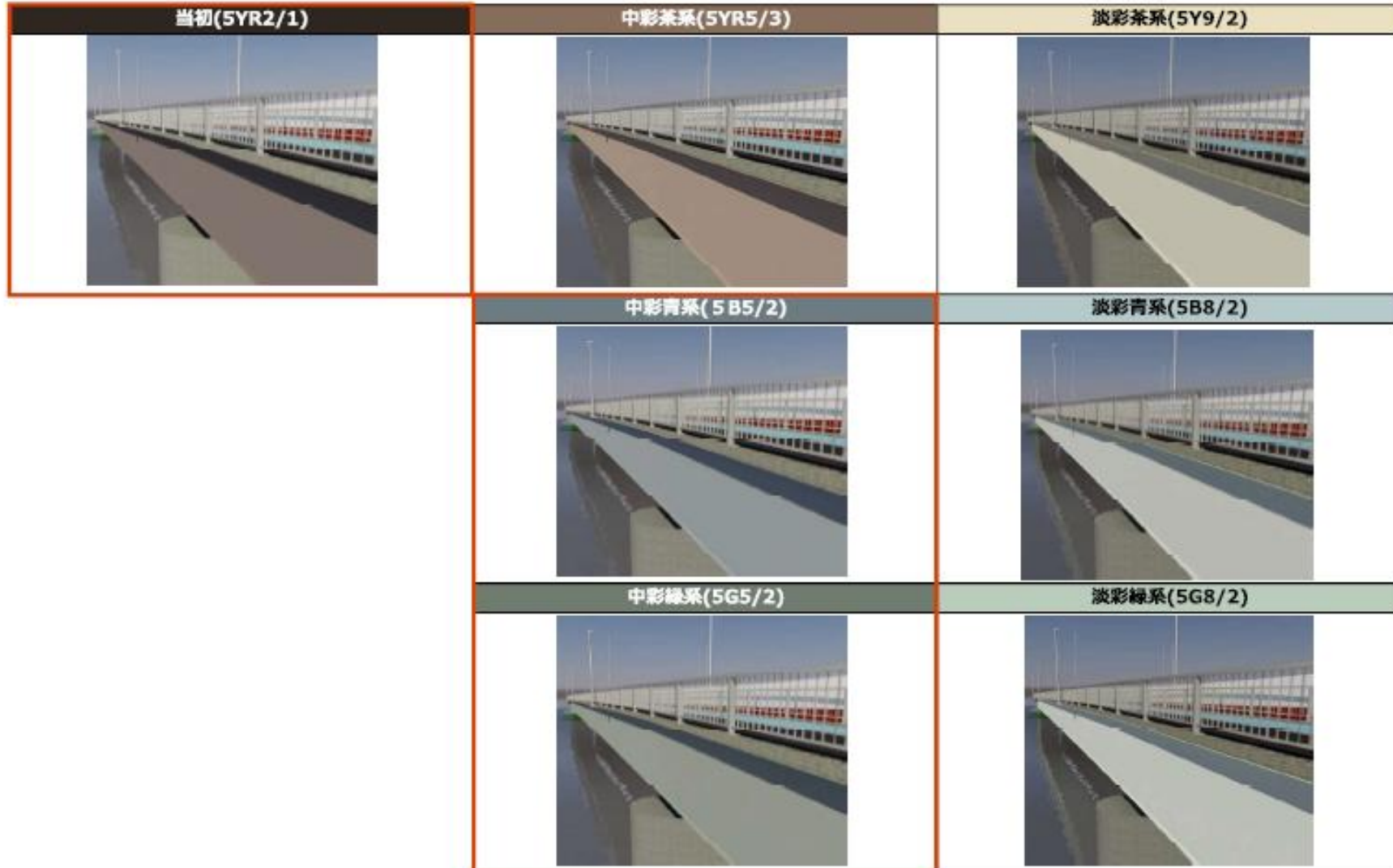


# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

⑩、⑪ 柵の色彩検討（生駒山や河川の緑、土色、夕日との調和を考慮）

資料④

## ◆大和川\_景観検討\_色彩

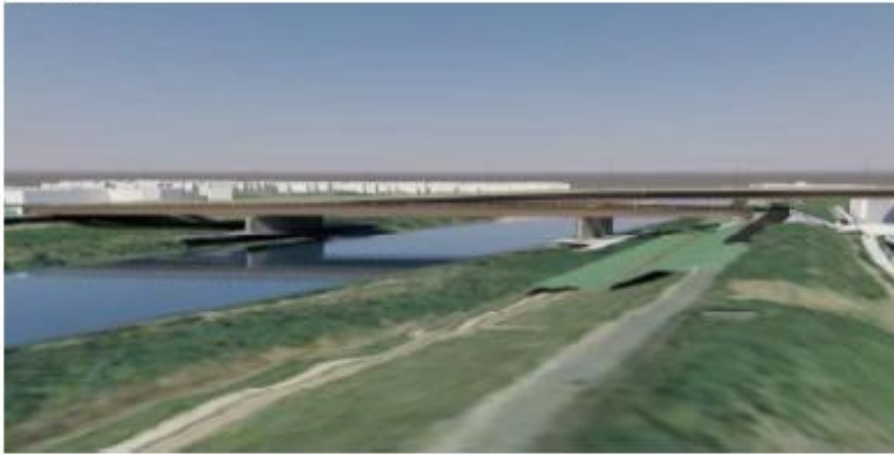


# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

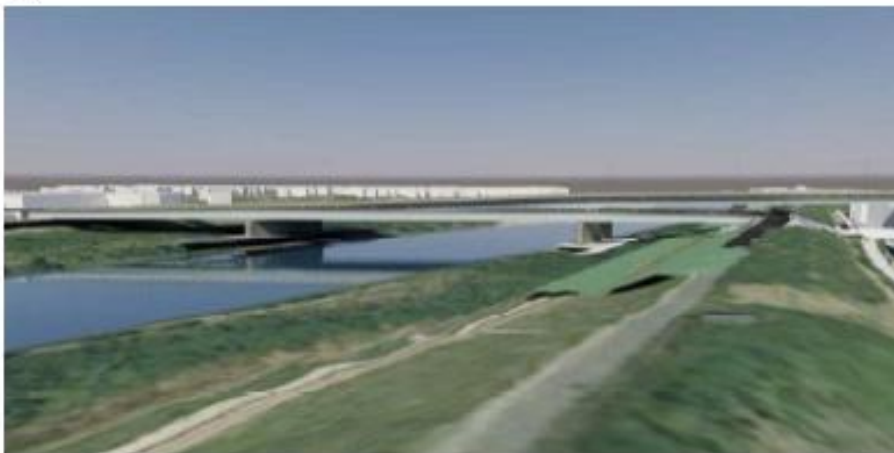
①②、③ 柵の色彩検討（生駒山や河川の緑、土色、夕日との調和を意識）

耐候性鋼材



- 周囲との調和が図れており、落ち着いたある耐候性鋼材（茶系統）を採用
- 緑色と同様に人間の気持ちを落ち着かせる
- 鉄やコンクリートの色と調和
- 構造物の安定感をかもし出す
- （保色性に優れる）

青系

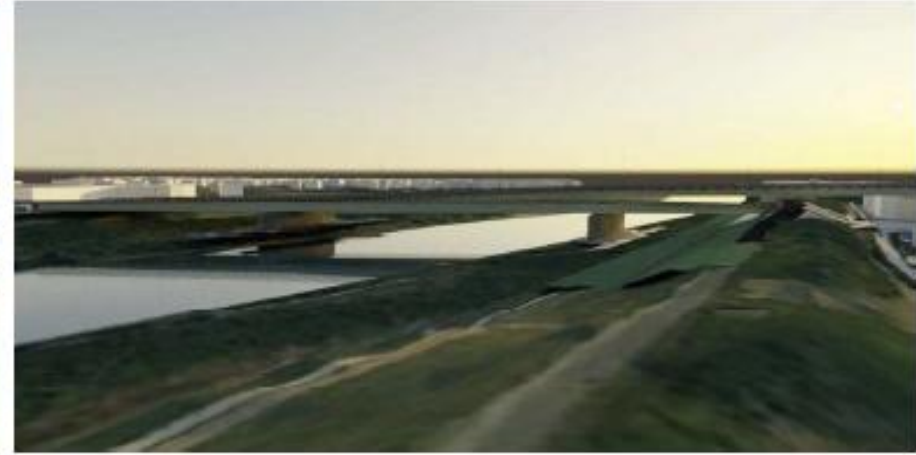
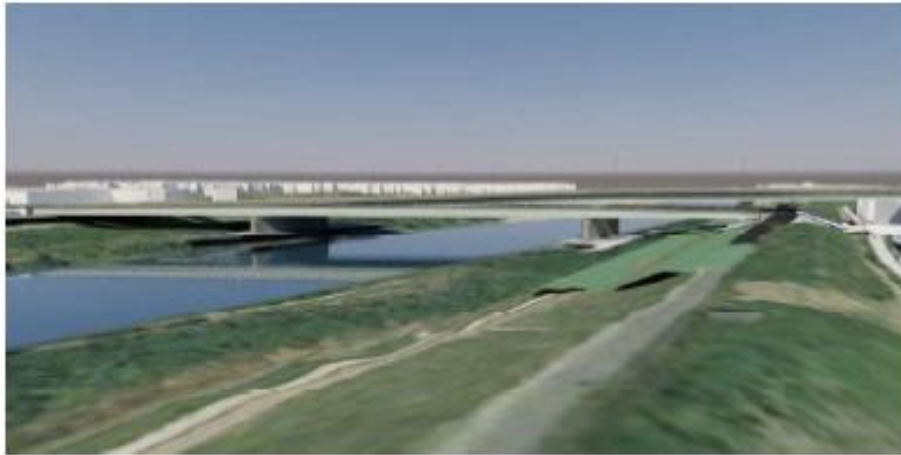


# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

⑩、⑪ 桁の色彩検討（生駒山や河川の緑、土色、夕日との調和を意識）

緑系



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

⑬、⑭ 防護柵のデザイン、色彩検討（背景の河川、木線橋を意識）

◆大和川\_景観検討\_歩行者自転車用柵\_色彩

	A① ダークグレー (濃灰色) 10YR3.0/0.2	A② ダークブラウン (こげ茶色) 10YR2.0/1.0	A③ オフグレー (薄灰色) 5Y7.0/0.5	A④ グレーベージュ (薄灰茶色) 10YR6.0/1.0
標準				
景観仕様				

○標準タイプ



○景観仕様

圧迫感が低減される丸みのある構造を採用





# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

⑩、⑪ 防護柵のデザイン、色彩検討（背景の河川、本線橋を意識）

ダークグレー



ダークブラウン



オフグレー



グレーベージュ



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

①②、②③ 防護柵のデザイン、色彩検討（背景の河川、本線橋を意識）

ダークグレー



ダークブラウン

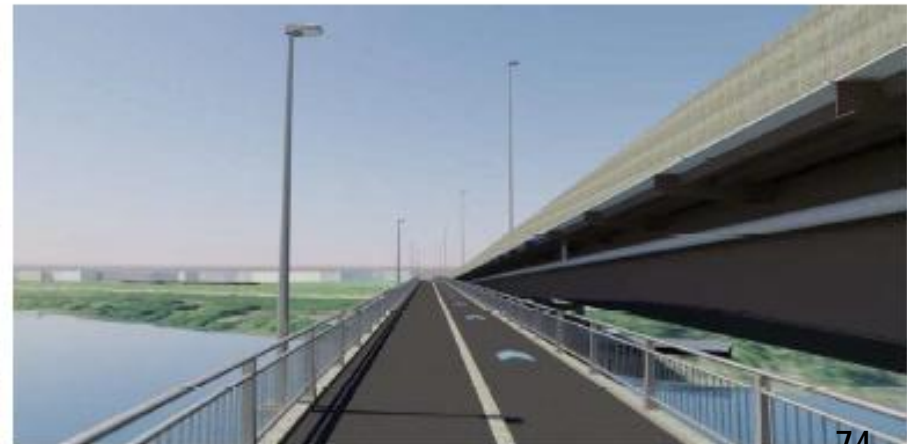
本線の上部工との調和にも配慮しダークブラウンを採用



オフグレー



グレーベージュ



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

09 自転車道の着色を検討

自転車道の着色(全体着色)



目立たないように安全上必要な最低限の着色を検討

資料④



歩道橋の着色(一部着色)



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

④ 光の干渉に注意し総合的にデザイン

資料④



車道：照明柱(両側)  
歩道：照明柱

車道：照明柱(中分)  
歩道：照明柱



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

⑧ 光の干渉に注意し総合的にデザイン

車道：照明中(中分)

歩道：高欄照明

全案共に対象道路を照らし安全を確保できる最低限の光源としているため、光の干渉による影響は小さいと考えられるが、歩道橋部で照射位置が低く対象(歩道・自転車道)のみを照らすことに長けた高欄照明を採用。

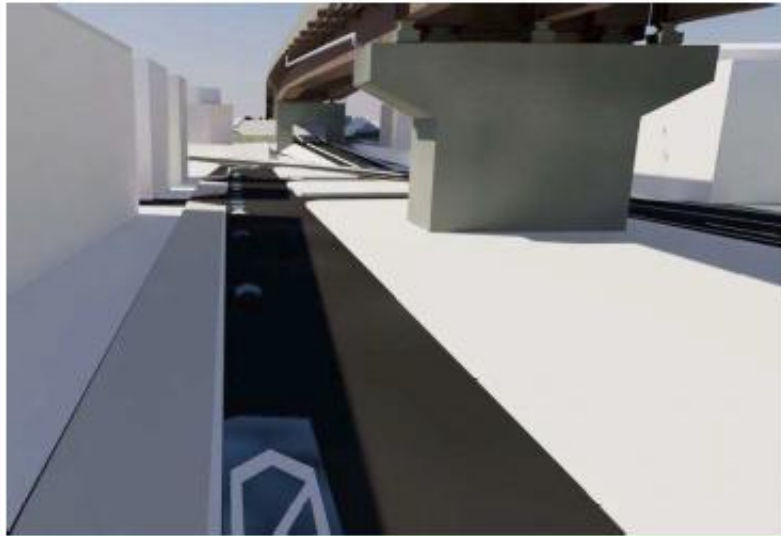


# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

④ 橋脚形式の統一感

P6 橋脚張出し式橋脚



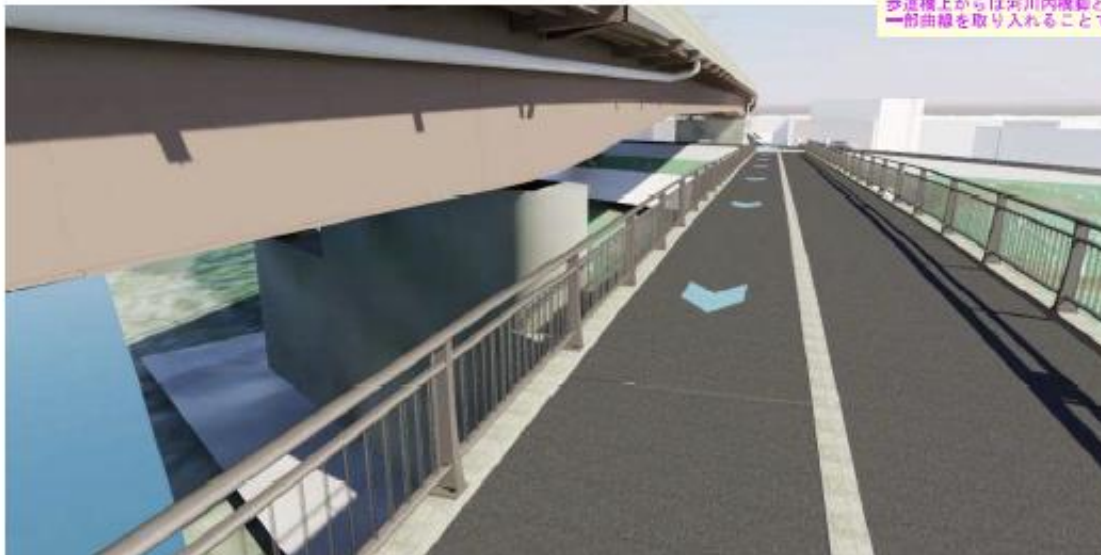
河川内橋脚(歩道橋上)

P6 橋脚壁式橋脚(河川内と統一)



- ・高架部では1箇所だけラーメン橋脚
- ・P1～P6橋脚を張出し式で統一すれば近接道路からの見え方に違和感はないと考えられる。
- ⇒P1～P6橋脚を河川内と同じ壁式橋脚に統一するメリットはないため張出し式橋脚を採用
- ⇒配慮として面取りなどで曲線を取り入れる。

歩道橋上からは河川内橋脚とラーメン式橋脚の二種が見えるが、  
一節曲線を取り入れることで違和感はないと考えられる。

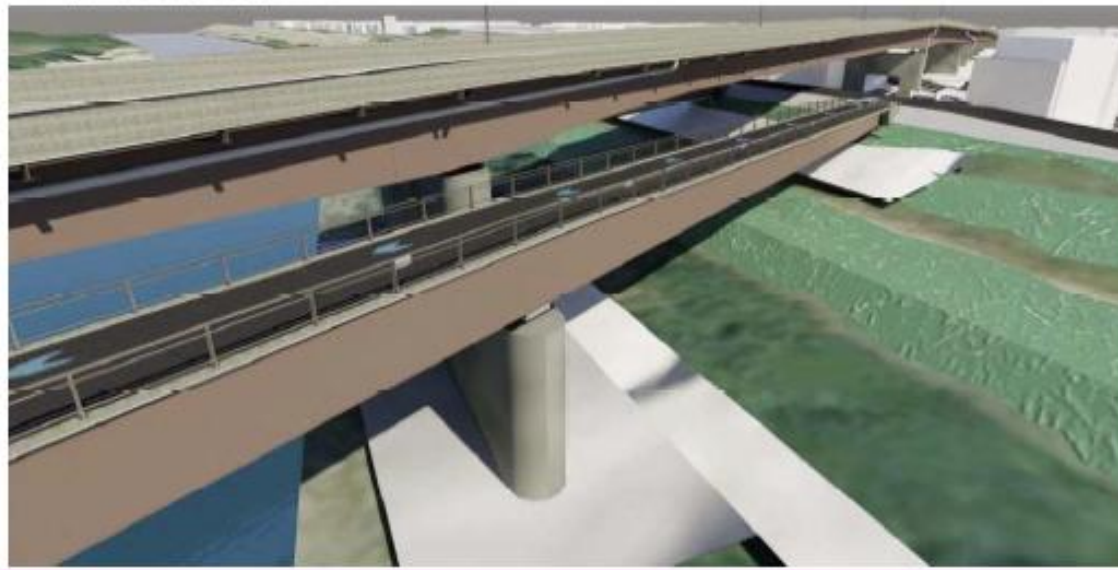


# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

## 資料④

### ④ 橋脚形式の統一感

P6～P8 橋脚が見える視点 (P6 強出し式)



P6～P8 橋脚が見える視点 (P6 壁式)



P6～P8橋脚を見させる視点は上空であることから、橋脚形式が統一できていないことによる景観的な違和感はほとんど無いと考えられる。

# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

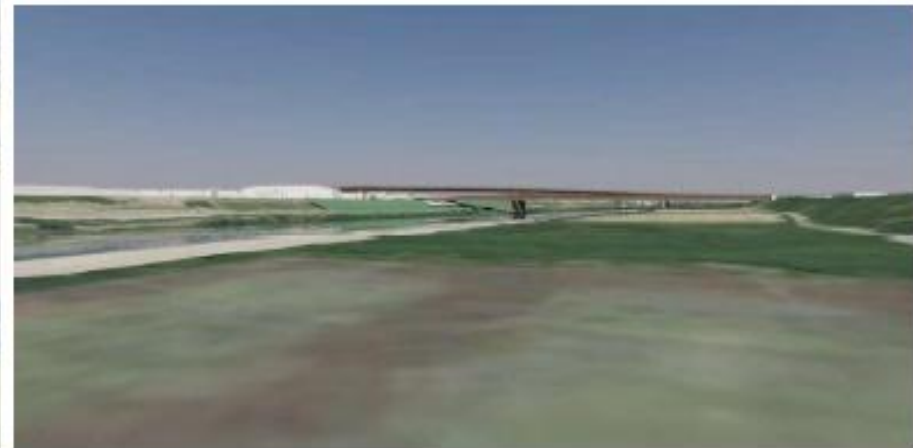
## ① 主要な施設からの眺望

主要な施設からの眺望



- ・鋼床板箱桁を採用し支間長を長くすることで、下部工基数を減らし、すっきりとした見た目となるように配慮
- ・色彩は周辺の緑と調和する茶系統を採用

運動公園



コミュニティセンター



大正橋





# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

③、⑧、⑩、⑪ 歩道橋上からの風景美、下から見る場合の居心地、走行車線からの目線、道路の内外からの視点

車道・歩道・交差道路からの眺望



# 第1回景観アドバイザー会議の指摘に対する回答

資料④

ドローンによる撮影写真との合成



# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## 大和川眺望景観区域

景観配慮チェックリスト【大和川眺望景観区域】		(該当する項目にチェックして下さい)				
景観形成の基準（制限事項）	チェック項目	基準に適合	基準に不適合	届出者・設計者等の意見		
建築物等（これに附属する工作物を含む）の基準	<b>《屋外に設置するもの》</b> ○駐車場、駐輪場及びごみ置場等を敷地の外から見える場所に配置する場合は、植栽により修景し、又は建築物若しくは塀と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をする。	駐車場・駐輪場・ごみ置場等が敷地の外から見える所にあるか ↓ 見えるが、植栽等による修景、建築物・塀等との一体化など、見苦しくない工夫をしているか	<input type="checkbox"/> 見える所がない  <input type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 見える所にある  <input type="checkbox"/> 特に工夫していない		
	<b>《外壁に設置するもの》</b> ○ダクト類は、敷地の外から見えにくい位置に配置し、又は建築物と一体化する等により、見苦しくしないような工夫をする。	ダクト類が敷地の外から見えにくい位置にあるか ↓ 見えるが、建築物との一体化など、見苦しくない工夫をしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 見えにくい  <input checked="" type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 見える  <input type="checkbox"/> 特に工夫していない		道路排水管は、橋脚にスリット（凹み）を設け、その中に収めることで外部から見えにくくするとともに、橋脚躯体との一体化を図る。また、桁裏に必要な点検用通路は、桁間に設けることで外部から見えにくくするとともに、橋梁上部構造との一体化を図る。
	○屋外階段は、建築物と一体化する等により、見苦しくしないような工夫をする。	屋外階段は、建築物との一体化などにより、見苦しくない工夫をしているか	<input type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 特に工夫していない		
	○エアコンの室外機及び物干金物等は、敷地の外から見える位置に配置しない。やむを得ず見える位置に配置する場合は、見苦しくしないような工夫をする。	エアコン室外機、物干金物等が敷地の外から見えるか ↓ 見えるが、見苦しくない工夫をしているか	<input type="checkbox"/> 見えにくい  <input type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 見える  <input type="checkbox"/> 特に工夫していない		
	<b>《屋上に設置するもの》</b> ○高架水槽及び屋上設備は、敷地の外から見える位置に配置しない。やむを得ず見える位置に配置する場合は、ルーバーを設置し、又は建築物と一体化する等により、見苦しくしないような工夫をする。	高架水槽や屋上設備が敷地の外から見えるか ↓ 見えるが、ルーバーの設置や建築物との一体化などにより見苦しくない工夫をしているか	<input type="checkbox"/> 見える所がない  <input type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 見える所にある  <input type="checkbox"/> 特に工夫していない		
○屋上工作物及び塔屋等は、建築物と一体化する等により、見苦しくしないような工夫をする。	屋上工作物、塔屋などは、建築物と一体化するなど、見苦しくない工夫をしているか	<input type="checkbox"/> 工夫している	<input type="checkbox"/> 特に工夫していない			
建築物（工作物）の外観	<b>《色彩》</b> ○外壁及び屋根等の基調となる色彩は、著しく派手なものとしな。*色彩基準を遵守すること。	外壁や屋根等の基調となる色彩が著しく派手か 色彩基準を超えていないか ①R(赤)、YR(橙)系の色相の場合、彩度6以下 ②Y(黄)系の色相の場合、彩度4以下 ③その他の色相の場合、彩度2以下 サブカラー、アクセントカラーの基準面積を超えていないか ①サブカラー：3分の1以下 ②アクセントカラー：2.0分の1以下	<input checked="" type="checkbox"/> 落ち着いている <input checked="" type="checkbox"/> 基準を超えていない  <input checked="" type="checkbox"/> 基準面積を超えていない	<input type="checkbox"/> 著しく派手 <input type="checkbox"/> 基準を超えている  <input type="checkbox"/> 基準面積を超えている	橋梁桁は、地域特性や橋梁の長寿命化、再塗装に伴う周辺地域への負担を防ぐことなどを考慮して対候性鋼材（憲房色）を採用しているが、時間の経過とともに素材の持ち味や深みが増すなどの効果もあること、鉄の持つ自然色（憲房色）と地覆（桁上部）・橋台の淡色と一体となった時のコントラストの妙、併せて橋脚コンクリート面に施すスリット系の化粧などと相まって、落ち着きとシャープさを演出するものとした。	
	<b>《外壁》</b> ○長大な壁面等は、適切な緑化や分節等により、単調にならないような工夫をする。	長大な壁面等があるか ↓ ある場合、適切な緑化や分節等により、単調にならないような工夫をしているか	<input type="checkbox"/> ない  <input checked="" type="checkbox"/> 工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> ある  <input type="checkbox"/> 特に工夫していない		
	<b>《意匠》</b> ○周辺の景観になじまない、著しく突出した意匠としな。	周辺景観になじまない著しく突出した意匠となっているか	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺になじんでいる	<input type="checkbox"/> 周辺になじんでいない <input type="checkbox"/> 突出させている		構造物や道路付属施設については、周辺景観との調和を意識したデザインとしている。
敷地内の緑化	○敷地内には緑を適切に配置する。	敷地内の緑を適切に配置しているか	<input type="checkbox"/> 配置している	<input type="checkbox"/> 配置していない	橋梁高架下や空港連絡道付近への積極的な植栽の設置を検討している。	
	○道路に面する敷地に緑を適切に配置する。（建築物のみ）	道路に面する敷地を緑化しているか	<input type="checkbox"/> 緑化している	<input type="checkbox"/> 緑化していない		
	○河川等※に面する敷地においては、河川等に面する敷地に緑を適切に配置する。	河川等に面しているか ↓ 面している場合、河川等に面する敷地を緑化しているか	<input type="checkbox"/> 面していない  <input type="checkbox"/> 緑化している	<input type="checkbox"/> 面している  <input type="checkbox"/> 緑化していない		
	○河川等※に通じる道路に面する敷地に緑を適切に配置する。（工作物のみ）	河川等に通じる道路に面しているか ↓ 面している場合、道路に面する敷地を緑化しているか	<input type="checkbox"/> 面していない  <input type="checkbox"/> 緑化している	<input type="checkbox"/> 面している  <input type="checkbox"/> 緑化していない		
	○緑の配置に際しては、周辺における緑のなじみ及び連続性並びに安全面等に配慮の上、植栽する樹木の位置、種類及び形状並びに壁面緑化その他の緑化手法等を検討する。	周辺における緑のなじみ及び連続性並びに安全面等に配慮の上、植栽する樹木の位置、種類及び形状並びに壁面緑化その他の緑化手法等を検討しているか	<input type="checkbox"/> 検討している	<input type="checkbox"/> 特に検討していない		

# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## ■ 公共施設景観形成基本方針（道路）

### ①道路

記載事項	配慮した内容	非該当	道路部	連続高架部	大和川橋梁部	検討方針
線形は、周辺の地形や景観への配慮を含む総合的な計画条件を検討して決定する。また良好なまちなみや地域の景観資源等の活用、あるいは歩行時や走行時の景観の変化や眺望にも配慮する。	線形は、既成市街地への影響等を少なくするよう配慮し都市計画決定されている。橋梁は、大和川眺望景観区域にあるため、圧迫感の少ない構造とし、道路内外からの眺望も考慮した。	□	☑	☑	☑	橋梁完成後の複数場所からの眺望についてCIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により確認するとともに、他の場所の施工事例も参考に、景観との調和を検討。
大規模な法面や盛土など周辺の景観に大きな影響を及ぼす恐れのある構造は、できる限り避けるなど、地域の景観を乱さない構造を選択する。	盛土が最小限となるよう設計した。壁面については、化粧型枠を用いるなどして、周囲と調和した圧迫感の少ない意匠とした。	□	☑	☑	☑	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により確認。
舗装については、安全面、機能面や環境面の配慮とともに、自然色舗装等地域の特性に応じたデザインや素材の工夫に努める。	橋梁上などのシンボル性の高い箇所は、舗装素材・色彩に配慮を行った。自転車通行空間の明示も限定的なものとした。	□	□	□	☑	自転車通行帯の全面ブルー塗装を取りやめ、自転車ナビマークを活用することで安全性を確保する。併せて橋梁歩道部の舗装材・色彩の検討を実施。
幹線道路などにおいては、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、都市防災の向上及び歴史的景観の保全のために必要な場合は、電線管理者等の協力を得て、無電柱化に努める。	本路線は、電線共同溝の整備区間に指定されており、無電柱での整備を行う。	□	☑	□	□	電線共同溝区間とすることで電線のない空間を創出するとともに、地上機器は景観と調和のとれた色彩とするよう検討する。
街路樹等の緑化にあたっては、景観の連続性やアクセントとなるような効果的な配置を工夫する。また、地域や場所の特性を表現するため、在来樹種等の活用を検討するとともに、植栽を行う地域や場所の環境に応じて適正な樹種を選択する。	自転車通行帯整備区間における植樹帯の設置は難しいが、橋梁下や空港連絡道など、シンボル性の高い箇所への植栽を実施する予定。樹種は今後検討を重ねる。	□	☑	☑	☑	交通安全等に配慮しつつ景観との調和を図れる樹種の検討を行う。
埋設物の維持管理等で部分的に舗装を復旧する場合、できる限り従前の舗装と違和感が生じないように配慮する。		☑	□	□	□	
玉串川、長瀬川沿いは、歩行者目線で楽しめる景観配慮として望ましい場合は、デザインマンホールの設置に努める。		☑	□	□	□	
附属物						
柵等は周辺環境に対して目立ちすぎない形状とし、色彩については、目立たず落ち着いた色彩を使用する。	地上区間の柵・電線共同溝等の設備は、標準品の景観色(こげ茶)とする。	□	□	□	☑	道路照明灯や転落防止柵等の道路施設についても、CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により景観との調和を検討・確認する。
眺望の期待できる高架道路等における付属物等については、安全性、機能性を確保しつつ、地域の状況に応じて、眺望の確保に努める。	眺望に影響する大和川橋梁の柵については、景観仕様を検討した。照明灯については、空に馴染む垂鉛メッキ仕様とした。	□	□	□	☑	
電柱等を含む道路占用物、設備類は周辺環境や他の構造物との一体的な調和を図るよう配慮する。	電線共同溝を整備する。地上機器は景観色(ブラウン等)とする。	□	□	□	□	電線共同溝の地上機器の設計は、景観と調和のとれた色彩とするよう検討を行う。
道路反射鏡については周辺景観との一体的な調和を図るような色彩及び形状を配慮する。	八尾富田林線の整備に合わせた道路反射鏡の設置予定はない。必要に応じて配慮した検討を行う。	☑	□	□	□	

# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## ■ 公共施設景観形成基本方針（道路）

彫刻、モニュメント等の設置にあたっては、安全性を含め設置場所の空間特性に配慮する。	彫刻・モニュメント等の設置予定はない。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
照明施設は、周辺状況に応じた照明方法等により夜間景観が良好になるよう配慮するとともに、光による害が生じないように努める。	複数パターンの配置を比較検討し、照明による影響を確認した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、夜間照明も含め景観との調和を検討・確認する。
照明施設の器具や支柱等のデザインは、周辺の自然やまちなみ等の景観に調和するよう配慮する。色彩については、周辺の柵等と調和したものとする。	景観に調和するシンプルなデザインを採用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
サイン等は、掲出場所に留意し、分かりやすく、統一性のある質の高いデザインを採用したうえで、数や規模を必要最小限とするよう努める。	サインの設置予定はないが、設置する際は景観に調和するデザインとする。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
道路標識・信号柱やサイン等の支柱の色彩や、サイン等色彩については、周辺の柵等と調和したものとする。	法令等に支障のない範囲で、警察等関係機関とも協議し、周辺の柵等と調和したものとする。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等に支障のない範囲で、警察等関係機関とも協議していく。
緑化						
各種緑化基準の達成に努めるとともに、民間施設のモデルとなる緑化に努める。	自転車通行帯整備区間における植樹帯の設置は難しいが、橋梁下や空港連絡道など、シンボル性の高い箇所への植栽を実施する予定。樹種は今後検討を重ねる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	交通安全等に配慮しつつ景観との調和を図れる樹種の検討を行う。
地域のシンボルとなる樹林や樹木は景観要素として極力保全する。		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
駅前や街の中心部などの緑化効果の大きい場所においては、それぞれの場の個性を形づくるシンボリックな高木の植栽や、地域との協働体制が活用できる場合などは、四季の彩りを演出する花壇などの整備についても検討す。		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## ■ 公共施設景観形成基本方針（橋梁・高架構造物）

### ②橋梁・高架構造物

記載事項	配慮した内容	非該当	道路部	連続高架部	大和川橋梁部	検討方針
橋梁の新設は、地域の特性に応じて、周辺の景観に対して配慮する。また、当該施設が地域の景観資源となりえる場合には、主要な眺望点からの見え方を考慮する。	新たなランドマークであることから、大和川眺望景観区域内にあることを意識するとともに、景観と調和するよう複数の視点場からの見え方を確認し、構造・付属物を検討した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	橋梁完成後の複数場所からの眺望について、CIM(3Dモデル)を活用し、視覚的情報により確認するとともに、他の場所の施工事例も参考に景観との調和を検討・確認する。
高架橋は様々な角度から眺められる対象となることから、周辺環境に馴染ませる工夫を行い、圧迫感や威圧感を与えないように努める。	下部工の数を最小限にするとともに、角を面取りして丸みを持たせたり、化粧型枠を採用するなどして、圧迫感を抑える工夫をした。また、上部工は可能な限り桁高を抑えるなどして、すっきりとしたデザインとした。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	橋梁完成後の複数場所からの眺望について、CIM(3Dモデル)を活用し、視覚的情報により確認するとともに、他の場所の施工事例も参考に景観との調和を検討・確認する。
下からの見え方に配慮し、桁裏・階段裏は高光度かつ低彩度の色とするとともに、すっきりとしたデザインとする。また、配管等の付属物は目立たないようにする等配慮する。	色彩については、維持管理面から耐候性鋼材(化成処理)の色である憲房色となるが、その他の景観への配慮として可能な限り径間数を抑えるとともに、薄く仕上げることで、すっきりとしたデザインとなるようにした。また、排水管は下部工にスリットを設けて設置するなどして目立たないようにした。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
橋梁・高架構造物の付属物については、道路の景観形成のポイントに準じる。	柵、照明などの橋梁付属物についても、橋梁と一体となり景観と調和するようシンプルな形状とした上、色彩にも配慮した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、景観との調和を検討・確認する。

# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## ■ 公共施設景観形成基本方針（斜面・法面・擁壁面等）

⑦その他(斜面、法面、擁壁面等)

記載事項	配慮した内容	非該当	道路部	連続高架部	大和川橋梁部	検討方針
<b>斜面・法面</b>						
緩やかな勾配の採用により圧迫感を和らげる。	(旧)大阪中央環状線と大和川堤防を結ぶ歩行者・自転車通行空間については、緩やかな勾配(5%以下)である。自転車道横の法面は用地幅内で緩やか勾配とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、景観との調和を検討・確認する。
周辺の地形との連続性に配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
可能な限り高さを抑え、形態を分節化するなど、長大な壁面が生じないように配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
安全上支障のない範囲で緑化し、周辺景観との調和に配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した(現堤防の植生に変更を与えない)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
<b>擁壁</b>						
高さを可能な限り抑え、圧迫感を和らげる。	盛土区間を最小限に抑え壁面積を抑えている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、景観との調和を検討・確認する。
周辺景観と調和した規模、デザインとなるよう配慮する。	周辺景観を圧迫しないものとするため、化粧型枠を採用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
擁壁前面に植栽を設けるなど、周辺景観との調和に配慮する。	可能な限り植栽を設け、緑化に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

# 景観配慮チェックリスト【八尾市】

## ■ 公共施設景観形成基本方針（斜面・法面・擁壁面等）

⑦その他(斜面、法面、擁壁面等)

記載事項	配慮した内容	非該当	道路部	連続高架部	大和川橋梁部	検討方針
斜面・法面						
緩やかな勾配の採用により圧迫感を和らげる。	(旧)大阪中央環状線と大和川堤防を結ぶ歩行者・自転車通行空間については、緩やかな勾配(5%以下)である。自転車道横の法面は用地幅内で緩やか勾配とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、景観との調和を検討・確認する。
周辺の地形との連続性に配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
可能な限り高さを抑え、形態を分節化するなど、長大な壁面が生じないように配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
安全上支障のない範囲で緑化し、周辺景観との調和に配慮する。	現在の河川堤防を極力変更しない形状を意識した(現堤防の植生に変更を与えない)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
擁壁						
高さを可能な限り抑え、圧迫感を和らげる。	盛土区間を最小限に抑え壁面積を抑えている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	CIM(3Dモデル)を活用して、視覚的情報により、景観との調和を検討・確認する。
周辺景観と調和した規模、デザインとなるよう配慮する。	周辺景観を圧迫しないものとするため、化粧型枠を採用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
擁壁前面に植栽を設けるなど、周辺景観との調和に配慮する。	可能な限り植栽を設け、緑化に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	



# 公共施設景観ガイドライン チェックシート【藤井寺市】

## 公共施設景観形成基本方針（斜面・法面・擁壁面等）

公共施設景観ガイドライン チェックシート(施設別景観要素シート)

景観構成要素	行為の場所	検討すべき事項・配慮すべき視点	チェック欄	具体的に配慮・工夫した内容(又は配慮・工夫できない理由)
基本方針 (全体配慮事項)	市全域	<b>①景観の分析要素とならないよう配慮する</b> <b>②近景からの圧迫感を軽減するよう配慮する</b> <b>③景観の大きなものは、景観的ランドマークを意図する</b>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	・下部工の敷や桁の高さを極力抑えたものとするなどで圧迫感を軽減した。また、掘や照明などにも配慮し、シンプルかつシャープな印象となるよう工夫した。
	古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>④古墳近傍や回遊路との交差部などでは、高架下などにも配慮する</b>	<input type="checkbox"/>	
	市全域	<b>① 橋全体としてまとまりのある景観とする</b> 橋全体の調和を意図して、すっきりとした構造としているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 住宅地や水辺などの景観特性に配慮しているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>③ 景観の分析要素とならないよう配慮する</b> 桁断面の面積が小さくなるよう意図しているか 配管類・補強材等は目立たないよう意図しているか 桁裏や橋脚・高架下等の仕上げを意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 道路全体としての連続性を確保する</b> 接続する道路の舗装デザインとの連続性を意図しているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 長大な高架橋、橋梁等では、舗装の色やデザイン等を工夫しているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	・自転車道も、通常能される青色着色を全面にすることを提案した。また、歩道に色別舗装を設け、ゆとりたつた遊歩道的感覚を提供できるようにする。	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>③ 回遊路を意図する</b> 回遊路を意図した舗装デザイン(色彩・仕上げ等)としているか <b>④ 古墳群との一体感を意図する</b> 古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図した舗装デザイン(色彩・仕上げ等)としているか もてなしを意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 橋全体としてまとまりを確保する</b> 橋全体としてまとまりを意図しているか 維持補修を行う際は、既存部分との連続性を意図しているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 水辺景観や周辺のまちなみに馴染むよう意図しているか ランドマークとなる橋以外は、シンプルなデザインとしているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		・橋はCIMIによる検討を行い、色彩はブラウン系、デザインはシンプルで軽やかな雰囲気となるよう意図している。
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 欄干の素材や形状、壁高欄・防音壁の外壁面の仕上げや色彩などは、古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図しているか	<input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 道路全体としての連続性を確保する</b> 接続する道路との連続性を意図しているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 住宅地や水辺などの景観特性に配慮しているか <b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 色彩は濃い茶系を基本とする 古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図したデザインとしているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	・照明はCIMIによる検討を行った。車道照明は中央分離帯に設置することで本数の軽減を図るとともに、柱色彩はブラウン系、デザインもシンプルで軽やかな雰囲気となるよう意図している。歩道照明は高欄に埋め込むことですっきりとした印象にするともに、橋梁シルエットを映し出す演出も図っている。	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>④ 古墳群との調和に配慮する</b> 色彩は濃い茶系を基本とする 古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図したデザインとしているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 橋全体としてまとまりを確保する</b> 橋全体としてまとまりを意図しているか(大和川、石川) <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 回遊路と交わる場所では、高架下の景観を意図しているか <b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 高架下に設置する欄や照明灯などは、古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図しているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		CIMIによる確認を行った。運動公園からはすっきりとした景観を楽しめると同時に、初音の橋梁の大きさも感じられる視覚的効果も期待できる。橋梁上からは、歩行者と自転車とを分離することで、歩行者が安心して生駒山系の山並みなどをゆったりと楽しめる。
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 高架下に設置する欄や照明灯などは、古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図しているか	<input type="checkbox"/>		

公共施設景観ガイドライン チェックシート(共通景観要素シート)

景観構成要素	行為の場所	検討すべき事項・配慮すべき視点	チェック欄	具体的に配慮・工夫した内容(又は配慮・工夫できない理由)
① 案内板、サイン等(広告物)	市全域	<b>① 周辺景観とのまとまりや調和に配慮する</b> 色彩や大きさなどは、目立ちすぎないよう意図しているか シンプルな意図しているか <b>② 景観的な場所に配置する</b> 古墳や観光資源等へ人々を誘導する上で適切な箇所に配置しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	案内板支柱には、色彩的な調和を図れるものを採用する。
	古墳周辺地区	<b>③ 古墳への調和を意図する</b> 回遊路などを意図してデザインを工夫しているか	<input type="checkbox"/>	
	古墳近傍地区	<b>④ 古墳への調和を意図する</b> 色彩は濃い茶系を基本とする 古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図してデザインしているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
	市全域	<b>① 地域特性との調和に配慮する</b> 周辺の住宅地や農地、夜間の交通等に対して光害とならないよう意図しているか 周辺地や駅前などの地域特性を意図しているか <b>② 光を効果的に用いる</b> 夜間の回遊や公共施設の利用やすさを意図しているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 古墳群の歴史的な雰囲気と調和する光源を用いているか 過度な光を発生する照明は用いない	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 公共施設本体との一体性に配慮する</b> 形状や色彩は、公共施設全体の調和を意図しているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 住宅地や駅前などの地域特性を意図しているか <b>③ 維持補修に気を付ける</b> 既存のものとの調和を意図しているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	・橋はCIMIによる検討を行い、色彩はブラウン系、デザインもシンプルで軽やかな雰囲気となるよう意図している。	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>④ 古墳群との調和に配慮する</b> 色彩は次を基本とする ダークブラウン(こげ茶色)、マンセル値:10YR2.0/1.0程度 ダークグレー(濃灰色)、マンセル値:10YR3.0/0.2程度 古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意図しているか 古墳への眺望を意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 公共施設本体との一体性に配慮する</b> 形態・意匠や色彩は、公共施設全体の調和を意図しているか 駐輪場等は通りから目立たないよう意図しているか <b>② 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 住宅地や駅前などの地域特性を意図しているか <b>③ 古墳群との調和に配慮する</b> 色彩は濃い茶系を基本とする 古墳群の歴史的な雰囲気と調和を意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		・橋はCIMIによる検討を行い、色彩はブラウン系、デザインもシンプルで軽やかな雰囲気となるよう意図している。
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>④ 古墳群との調和に配慮する</b> 色彩は濃い茶系を基本とする 古墳群の歴史的な雰囲気と調和を意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>① 景観要素とならないようにする</b> 擁壁、法面の仕上げを工夫しているか <b>② 古墳群との調和に配慮する</b> 古墳群の歴史的な雰囲気と調和する仕上げ等を意図しているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	橋梁桁高さを抑え、かつ上部(地面)と一体とすることで、すっきりとした感覚を提供できるようにした。	
古墳周辺地区 古墳近傍地区	<b>① 地域の景観特性との調和に配慮する</b> 藤井寺市景観計画(建築物、工作物)の色彩基準に準拠しているか 住宅地や駅前などの地域特性を意図した色彩、配色等としているか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
市全域	<b>② 古墳群との調和に配慮する</b> 藤井寺市景観計画(建築物)については古市古墳群周辺景観地区の色彩基準に準拠しているか 古墳群の歴史的な雰囲気や緑との調和を意図した色彩、配色等としているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		

## 参考資料

### ■ (都) 八尾富田林線の道路構造等に関する地元説明会の様子

